

Ring-Bong 第8回公演

「ふたたびの日は何色に咲く」

5月30日(水) ～ 6月3日(日)

@座・高円寺1

舞台

カフェ「ラ・コパン」が舞台。(新橋近い銀座。カフェプランタンがモデル)

そのカフェで「山荷葉」の短歌の会が開かれている。

または汽車の中。その汽車は、時間を旅しているらしい。

1919年 大正8年…①

1928年 昭和3年…②

1941年 昭和16年…③

1950年 昭和25年…④

登場人物

市田房子(①19②28③41④50)：市川房枝がモデル。輝代の女学校の新聞部の後輩。

短歌の才能は全くないが、女性運動家とし活躍していく。理想を語り、感情より理性で生き、嘘がつかない。女学校へ通う頃から、一子の家に居候している。実家は静岡のお茶を栽培する農家。

麻乃輝代(①24②33③46)：平塚らいてうがモデル。お金持ちのお嬢様で自由に育てられていることもあり、考え方は時代の先をいくが下働きまではしない。「かわいそう」と思うことに同情し力を注ぐことが多い。

水原麻里子(①22②31)：原阿佐緒がモデル。「山荷葉」を代表する短歌を多く作る。

恋多き女で河野と駆け落ちしスキャンダル事件となる。

佐藤(多田)一子(①19②28③41④50)：房子と同級生。この中で一番普通な人。

高円寺のお茶と海苔の店の娘。日常を楽しめる人。房子とは従姉妹。

内藤新之助(①47②56)：短歌の会「山荷葉(さんかよう)」の代表。お金持ちで女好き。ラ・コパンのオーナーでもある。短歌をはじめ芸術には自由で進歩的なものを好むが、社会やジェンダーに関しては保守的な思想の人。

河野弘(①40②49)：石原純がモデル。有名な物理学者で大学教授。物理の自分のピークは過ぎたと感じ、短歌に夢中になっているらしい。「山荷葉」の重鎮でもある。家同士の結婚に疑問を感じたことはなかったが、麻

里子に夢中になり家庭も地位も捨てて駆け落ちする。

吉岡悟(①25②34③47)：河野の教え子。物理学の研究者で才能があり、論文を河野の嫉妬によりつぶされた経験がある。爽やかな好青年だが、それを利用しているところもある。野心家。嘘を利用できる人。

多田幸助(②28③41④50)：一子の夫になる。男が働き女は家を守るという考えで、家族を大切にする人。芸術のことは一切わからない。出征し、マラリアをしょって帰ってくる。

堀陽介(①28②37③50)：編集者。短歌は下手の横好き。赤旗運動にも関わったことのあるらしい社会主義の思想の持主。房子の才能を見出す人。

内藤省吾(①20②29③42)：画家。輝代の彼氏。画家なのだが、新劇に夢中な時代もあり、やりたいことしかない生活能力がない人。そこが輝代には純粋な人と映っている。

多田清子(④22)：一子と幸助の娘。

市田とら：房子の母。明治の女で、家に従って生きた人だが、愛情あふれる人。

女給：のち、新之助の妻に。

特高

記者

車掌：時間をつなぐ存在。

1場

1950年 10月12日 汽車の中

東京へ向かう35列車。長時間の移動だが、この車両は寝台車ではない。幸助の実家(岡山の山奥)から、房子、一子、幸助、清子が汽車に乗っている。4人は夕食のおにぎりを食べている。

一子 あ。当たり！

幸助 おかかか？

一子 そうそう。

房子 一子ちゃん、自分で作ったのに当たりとはずれがあるの？

一子 おかかのおむすび、好きなんかも。

清子 駅弁、買ったかったな。

幸助 ないだろう？まだ。買えるとしたら、汽車パンくらいだ。

清子 あれはおいしくない。

一子 清子。食べながら読むのはやめなさい。

清子 (一気に口の中に入れて) もう食べた。

幸助 そんなんじや、お嫁に行けないぞ。
清子 父さんはそればかり。
幸助 清子たちの世代は、男が少ないんだから。
一子 ちゃんと、手を拭きなさいよ。房ちゃんの大事な資料なんだから。
清子 これなんか割りばしの袋でしょう？捨てていいでしょう？
房子 でもここに、メモ書きが…
清子 房子さん、なんでこんな割りばしの袋なんかに書いたのよ。
房子 ご飯食べてるときに思いついたのよ。思いついたらすぐに書かないと忘れちゃうから。
清子 これ、あれだよね。しくやつ。
房子 コースターね。
清子 まともな紙がほとんどないけど。
房子 書類とかノートはほかにあるのよ。
清子 お母さんがやたらにメモするのって、房子さんの影響？
一子 そうかもしれないわねえ。
幸助 房子さんの鞆、どれも重かったですもんね。
房子 すみません。腰、悪いのに。
幸助 (笑って) いえいえ。しかし…長かったですね。三年…ですか。
房子 それだけのことをしたということでしょう。
幸助 大日本言論報告会の理事だったからだとしても、房子さんの場合は…
房子 言論弾圧をする立場だったとみなされたわけだから
清子 でも、三年も何にもしちやだめだなんて重すぎない？東条英機とか、軍部の
人にみんなが騙されていたわけなんでしょう？
幸助 ラジオで言ってたままじゃないか。
清子 だって、そう言ってたよ。
幸助 なあ。ちよつと寒くないか？
一子 そう？
清子 ちよつといいけど。

幸助も清子が見ているメモを手を取ってみるが

幸助 清子。人のものなんだから、そんなにじろじろ見るな
清子 いや。暗号だね。房子さん以外に読めないよ、これ。
幸助 ええ？うーん…。
清子 ちよつとはさ、色つばいものでもないかなあと思ったけど、さっぱりないね
房子 そういうものは、ここにあるのよ(と、胸をたたく)

清子 おお。

二人は笑う。

一子 私も、メモをしたの。

房子 (メモを受け取り) 上野のアメ横で買い物をする。(チョコレートが食べてみたい。) 武蔵野館で映画を見る。

幸助 なんだ。遊びのリストか？

一子 だって、東京に出てくるのは久しぶりなんですもの。

清子 私、銀座に行きたい。

房子 銀座は…、進駐軍しか入ってはいけなるところも多いわよ。

一子 じゃあ、ラ・コパンも？

房子 米兵専用のバーになっているんじゃないかしら。

一子 じゃ、中には入れないのね。

房子 ええ。

一子 寂しいわねえ…

清子 ラ・コパンって、お母さんと房子さんの青春の店なんでしょう？

房子 そうねえ。そうなるわねえ。

一子 そうよ！懐かしいわね。

清子 お父さんも行ったことあるの？

幸助 あるぞ。

清子 お父さんが、銀座！（大笑い）

幸助 何がおかしい。

一子 みなさん、お元気かしらねえ。

幸助 房子さんがようやく解除になったと思ったら、今度は陽介さんが心配ですねえ。

清子 陽介さんって人も戦争協力をしていたの？

房子 あの人は（首を振る）

幸助 戦争反対を訴えて捕まっていた側だよ。

清子 え？じゃあどうして？

房子 逆コースって聞いたことない？

清子 あー…

房子 日本の帝国主義に賛同した人を、GHQは公職追放に指定したの。でも、朝鮮戦争を境にね、今度は共産主義者の公職追放を始めているの。

一子 陽介さん、ちょっととしたヒーローみたいになってた時期もあったじゃない？それがまた…ねえ。

幸助 どうも寒気がするな。

一子 あらやだ。最近なかったのに…

幸助 まいったな…

一子 いいわ。静かにしていい。

幸助が本格的に震えだす。一子は慣れた様子でテキパキとありったけの上着を着せて、それでも震えが止まらない幸助を抱きかかえる。

清子 またかなあ。

一子 そうねえ。

房子 本場にマラリアなの？だつてかかった方はほとんど…

一子 だつて、南方から帰ってきてからのよ。

清子 分かってたらしいのよ。父さんが行く先の村にはマラリアが蔓延してるつて。味方の兵隊を確実に病気になるところに行かせるなんてさあ。何がしたいんだつて話だよね。

すると急ブレーキ。車掌が現れる。

清子 どうしたんですか？

車掌 少々お待ちください。

車掌はあわただしく去る。一子は、幸助の背中をさすりつつ

一子 …何かしら。

一子、窓を覗く

清子 飛び込み？

一子 やだ。よしてよ。(窓から離れる)でも、到着までだいぶかかるんなら、横になつたほうがいいわね

清子 やっぱり寝台車にすればよかったのよ。

一子 何言ってるの。清子がどうしても一緒に東京に行きたいって言うから、お金が足りなくなっちゃったんじゃない。

清子 だって、一生岡山のご田舎にいますまなんて耐えられないもの。

一子 いいところじゃないの。

清子 東京はよかった、銀座はよかったって散々自慢していたのはどこの誰です

一子 か？
そりゃ、だって…ねえ。(幸助に) 枕がほしいわね？
幸助 いい。大丈夫だ。
清子 この袋、枕にする？
一子 清子。それは、房ちゃんの大事な書類…
房子 いいわいいわ。使えるなら使って。
一子 でも、大事なものなんでしょう？
房子 棄てようとしても棄てられないものって言った方が近いのよ。これがあつたから何もかも駄目になったような気もしてね。
清子 じゃあ、何で持ってるの？重いのにわざわざ…
房子 だから、まあ、せめて枕にでもして(笑う)
清子 でもさあ、なんで？
一子 こっちの箱、どうする？房ちゃんのメモが入った箱。
房子 ああ。これ？
清子 このメモだって…また、持って帰ってどうするつもりなの？
房子 …。

汽車の中が真っ暗になり、汽車が走り出す音。汽車の座席に正座してるとら、隣には車掌が座っている。

車掌 …いつにしましょう？
とら (首を横に振る)
車掌 難しいですねえ…
とら (頷いている)

房子と清子がいる。

清子 あれ？父さん？母さん？
房子 おかしいわね
清子 しかも、走ってるわよ。汽車
房子 本当ね
清子 あ。(車掌に気が付く)
車掌 え？…おや？どうして…
とら …房子かね
房子 え？
とら 房子だな

房子 …かあちゃん？
清子 房子さんのお母さん？
車掌 おや？
房子 でも9年前に死んで…え？
車掌 ああ。そうでしたか…。
房子 おかしいですよ。だってさっきまで…
とら (溜息をつく)
車掌 (とらに) 決めました？
とら …難しいずら
車掌 そうですよね。本当に難しい
とら あれ。きれいだよあ

とらが見ている窓の外を房子ものぞく

房子 …え？ここって…
清子 どうなってるの…？
とら 房子。あれは、なんて書いてあるだね？
房子 え？どれですか？
とら ああ、見えなくなっちゃった。かあちゃん、カタカナは読めるだけえが…
房子 …
房子 は母ちゃんに似ねえで賢く生まれたで。父ちゃんは女だてらになんて
言ってるけえが、房子が賢いことはわかってるだよ。母ちゃんは学が無いも
んで。房子らを連れて家を出ようにも、食わせられんずら。我慢するしか
いだよ。房子たちのために、我慢して家にいるしかないさや。
房子 死んだかあちゃんが会いに来てくれた。…ということは私達は…
清子 え？やだ！私、まだ若いのに！
車掌 旅をしているだけですよ
房子 旅？
車掌 ええ。旅をね。しかし、どうして乗れたんでしようねえ。この汽車に。
清子 それはこつちが聞きたいんですけど。
とら 父ちゃんは、酒さえ飲まなけりや…
房子 私も、酔っぱらった父ちゃんは嫌い。母ちゃんばかり我慢して…
とら 母ちゃん、女だで。仕方ないさやあ。
房子 女だから…
とら 高円寺の兄さんも、房子が賢いことは前から知ってる。夏休みに一緒に遊ん
だ一子ちゃん、覚えてるら？

房子 …ええ。

とら 一子ちゃんと同じ女学校に通うだよ。ちょうど同じ年だもんで運がよかつたっけね。一子ちゃんが分からないところを、房子が教えてやってほしいだつて。それで、居候させてもらおうずら。

房子 ね、母さん。私をいくつだと思ってるだね？

とら (笑う) 今年のお正月で14ら。半年遅れてしまったけえが、房子の学力んならすぐに追いつくらって先生も言ってくださってるだよ。

房子 私はね…

と、とらは房子の両手を握る

房子 ガサガサだな、母ちゃんの手。

とら いや、みっともねえさやあ。房子の手はつるつるだで。

房子 ごめん。私、手伝ってないもんで…

とら いいだよ。手伝いばっかしてたら、母ちゃんとおんなじになるだで。勉強、してえずら？

房子 したい。

とら 房子がいやあ、父ちゃんは反対しねえずら。

房子 うん。

とら 房子にやあ、違う…手がガサガサにならん…殴られんていい生き方をしてほしいだよ。そのためなら、母ちゃんはなんだつてするずら

房子 かあちゃん。私…

とら 頑張るだよ、房子

房子 …かあちゃん

明かりが変わっていく。

車掌 (新聞を読んでいる) カルピスは奇しき力を人に置く 新しき世の健康のため…1919年大正8年7月7日。七夕にちなみ、天の川をイメージした水

玉模様の包装紙にくるまれた乳酸飲料「カルピス」デビュー。

場面は1919年のラ・コパンに

2場

1919年(大正8年)夏 カフェ ラ・コパン

蝉の声。カフェ ラ・コパンの入り口で「かなりや」を口ずさみながら水まきをしてい

る女給。

きよろきよろしながら、河野が現れる。

河野 君、見ていないか？

女給 え？何をです？

河野 …いや、いい。

と、またきよろきよろしながら向こうのほうへ。

房子 河野先生？…じゃ、ここは…

すると、カフェの中の会話も始まっていく。新之助、河野、陽介、省吾、輝代が酒の力も手伝って、芸術について世界について大いに語っている。清子は外側から見ている存在。房子は、知らない間に入り込んでいく。

新之助 かなわんな。この暑さは。(と、扇子でバタバタと扇いでいる)

陽介 風でもあればいいんですがね。風鈴だって、働きようがない。(と、手で揺らして風鈴を鳴らす)

房子 …陽介さんだ。

新之助 耳から涼をとるだなんて日本だけだろう。ええ…「秋風に…揺られて響く風鈴の…」

陽介 まだでしょう、秋は。

輝代 季節が分からなくなってるわ、私。

省吾 久しぶりだからね、山荷葉に来るのも。

輝代 ええ。議論どころか大人と話すこと自体が久しぶりよ。

新之助 (乳母車のほうを見て) 何か月だ？

輝代 三か月ですわ。

陽介 輝代さんが、母親になるとはなあ。

女給 あ！ごめんなさい！

水やりの水が、河野の足元にかかってしまった。

河野 いや、いい。君、見ていないんだな？

女給 え？

河野 いや、いい…。

河野中へ。

新之助 河野君。どこへ行っていったんだね。そろそろ…

河野 はあ。

輝代 あら、河野先生。ズボンが濡れて…

省吾 雨？

女給 すみませんでした！私が…

新之助 君か？

女給 すみません！

河野 いえ、いいんですよ。僕も、ぼんやりしていた…（と、ポケットに入っていた紙で拭こうと）

輝代 そんな、紙なんかで。あなた、手拭い持っていらっしやい。

女給 はい！（奥へ）

河野 いいんです…

女給が素早く手拭いを持ってくるが、紙はボロボロになっている

新之助 ま、河野君。とにかく座りたまえ。

河野 ザーツとくるかもしれない。

輝代 あら。いいお天気ですのに。

河野 （眼鏡をはずし、すかしてみせて）この感じは、降るんです。

陽介 眼鏡でわかるんですか？

河野 分かるんです。来ていませんか？

新之助 ん？

河野 まだか…（と、ぶつぶつ言っている）

新之助 麻里子君かね。

河野 雨が降ったら、かわいそうでしょう。

陽介 酷くなったら困るな。大丈夫かな…。

輝代 お宅の雨漏り、まだ直していませんの？

陽介 そんな金、どこにあるんです？

新之助 だからもっと売れる雑誌を作ればいいんだ。いつも決まった人間しか読まないような雑誌じゃなくて。

陽介 金儲けじゃありませんから。

省吾 しかし陽介さん。聞くところによると次号は…。

陽介 ああ、発禁だ。また発禁だ。参っちゃまうよ。

新之助 じゃあ、雨漏りしようがしまいが、どっちみち…。

陽介

考えられませんか。僕は、果敢に立ち上がった一人の女学生について書いただけだ。それだけで発禁処分とは…

輝代

柳寛順（ユグアンスン）でしょう？日本政府にとっては厄介な存在なのじゃないかしら。

新之助

あ？

省吾

韓国のジャンヌダルクだの、相当な持ち上げられようだからね。

輝代

あの独立宣言はたいしたものだったわ。日本の占領下からの独立、朝鮮人の自由を訴えながらも、日本に対しても真の友好を築こうとしているじゃない？

新之助

ええ？

省吾

僕もその点は評価しているよ。自由、平等を願うのはどの国の人間であつても当たり前のことだ。

新之助

輝代君。もう少し大きな声で話してくれないか？君と省吾君の二人きりじゃないんだから。

輝代

ですから、3. 1運動の独立宣言はたいしたものだ。独立、自由を訴えながらも日本に対しても真の友好を呼び掛けている。と言ったんです！（極端に大きな声）

新之助

分かった分かった。極端なんだよ、輝代君は何でも。

乳母車の赤ん坊が泣く。輝代が大きなため息。一子が立ち上がり、乳母車へ。

一子

あらあら。どうしたの？

新之助

赤ん坊は、オープンハートだぞ。誰に対しても公平に自分の気持ちを伝える。

一子

（匂いを嗅いで）おむつだわ。

輝代

一子さん、ごめんなさいね。

一子

いえ、私、弟たちのおむつかえで慣れていきますもの。房ちゃん、おむつ取って。

房子

え？

一子

おむつ。

輝代

その風呂敷の中に、替えがあるのよ。

房子

あ…

清子

房子さん？

新之助

一子ちゃんは、母性があふれとるな。この点に関しては、男はどう逆立ちしたところで…わあああ！（赤ん坊におしっこをひっかけられた）

みんな、笑う。赤ん坊が特に笑う。

輝代　ごめんなさいね。(と言いつつ笑っている)

新之助　なんなんだ、ほんとに。こいつも大きな声で笑いやがって…

輝代　こいつ？

新之助　いやいや

省吾　大きな声は僕に似たんですかね。

一子　そうですわ！省吾さんに似たんですわ。役者さんって大きな声ですもの。先日拝見した「人形の家」も素敵でしたわ。ね。房ちゃん。

房子　え？…ええ。

一子　演劇っていいものですねえ。私、劇場にいただけでワクワクしてしまっ

…。ね！

房子　私は…

一子　なに？

房子　物語には共感したのよ。でも、あんなに長く難しくしゃべらなくてもいいんじゃないかって思ったのよ。

一子　それがいいのよ！難しいものを観ているなあ…って思うと、ちょっと賢くなったような気がするもの。

省吾　欧米人は、よく議論をするからね。

房子　日本人はあんなに喋らないし、それに…

省吾　なに？

房子　どうして目の上を青くするのかと。

省吾　欧米人のような青い瞳に見えるだろう？

房子　…見えなかったです。

再び赤ん坊が泣く。輝代と一子が同時に立ち上がる。

一子　あらあら(赤ん坊の元へ)

輝代　一子さん、せっかく来てくださったのに、うちの子の面倒を見てもらってばかり…

一子　いいんですの。赤ん坊、大好きですもの。

新之助　しかしちっとも参加しないままでは意味がない。一子さん、こちらに座りなさい。(と、自分の隣の席を)

輝代　そうね。そうなさい。

一子　まあ、すみません。じゃ、房ちゃんも。(と、房子も隣に座らせる)

新之助　ん？

輝代は乳母車のほうへ。

輝代　ごめんなちゃいね。お母様でちゅよー。

周りは、輝代の赤ちゃん言葉にちよつと驚く。輝代はお乳をあげている。

陽介　あんな高い声で話すのを初めて聞いたぞ。

みんな笑う

省吾　（一子に）僕たちはアトリエを建てたんだ。一階は僕が思う存分絵が描けるように。二階は輝代ちゃんの執筆のために。

一子　絵も描かれるんですか？

省吾　本業は画家なんだ。それが、一階は芝居の稽古に使っちゃまってるものだから…。

一子　アトリエ…！

陽介　静かないいところだよなあ。近くには川もあつたりしてね。

省吾　セザンヌのアトリエに習ったんだ。

一子　セザンヌ！

房子　好きなの？

一子　知らない。でも、なんだか素敵。

房子　ええ？

陽介　絵は一枚も完成していないようだったけれど…。

省吾　そのうちに、まあ。でも、あの場所ならどんなに大きな音を出したところで、文句を言われませんしね。

陽介　確かにな。

省吾　そうだ。君も参加するかい？

一子　いえ、そんな。私なんか。

新之助　慎ましいねえ。いいねえ。

一子　輝代先輩とお会いすると、女学校の時に戻ったみたいで。ね？

房子　そうね。

陽介　二人は同級生？

房子　はい。

一子　輝代先輩が房ちゃんを山荷葉に誘って、房ちゃんが私を連れてきてくれて。ああ。

陽介

一子 輝代先輩が女学校で新聞を作ったときに、手伝っていたのが房ちゃんなんです。
房子 私は、誰でもできることをやっていただけですもの。
一子 輝代先輩は、私達のあこがれの的でしたから。
陽介 「新しい女」といえば、輝代さんだものなあ。
一子 ええ！輝代先輩の髪型とか、お着物とか…真似しましたもの。

河野、大きなため息をつく。みな、河野を見る。

新之助 さてと。あとは…
陽介 悟さんと
河野 麻里子さんです。
新之助 ああ。後二人か。そろそろ時間だが…もう始めるか？
輝代 もう少し待ってもいいわよねえ（省吾に）
新之助 ええ？
省吾 後二人ですから、もう少し待ってはいかがですか？
新之助 うむ。

赤ん坊がうなる

輝代 どうちたの？どうちまちたか？
一子 輝代さん。結婚されて、お子さんも産んで、短歌も運動も続けていらっしやるだなんてすごいわ。
新之助 籍は入れてないんだぞ。
一子 でもご家庭を持つてらっしやるのは確かでしょう？素敵だわ。
房子 そうねえ。
一子 あの。省吾さん。
省吾 なんだい？
一子 この人こそ「運命の人」ってどうして分かるんですの？
省吾 （笑って）分かるというか…感じるものなんじゃないかな。
一子 感じるもの…
新之助 「運命の人」なあ…。しかし、籍は入れたほうがいいだろう？
省吾 紙一枚に縛られる関係にはなりたくない二人で決めたものですから。
新之助 しかし、みんなやっつてることを何でもかんでも否定しなくても

河野も席に参加しているが、麻里子がいつ来るのかと心ここにあらず。そこへ驟雨。

一子 あら、雨。

河野は外へ飛び出していく。

新之助

河野くん！

一子

傘もささずに…

陽介

飛び出していったねえ。

省吾

「春雨に濡れて君こし草の門（かど）よ おもはれ顔の海棠（かいどう）の

夕（ゆふべ）」

新之助

「みだれ髪」か。

一子

どうなさったの？

省吾

恋だよ、恋。

一子

え？恋？

省吾

「誰かに台詞を与え、皆に忘れられる。それが私の人生。」

房子

え？

一子

シラノドベルジュラック！

省吾

そう！よくわかったね。

一子

感動しましたもの。ハンカチが一枚じゃ足りなかったわ。

省吾

河野先生は、はじめシラノの役割だったんだ。愛弟子の恋の手助けをしよう
と短歌を作ってあげていた。愛弟子に変わって愛の短歌を作るうちに、自分
のほうが恋煩いになっちまったってやつだ。

陽介

家まで押しかけたりしてるんだろ？麻里子さんもお気の毒だ。

一子

麻里子さん？

房子

まだいらしてないけれど、山荷葉の中心になってる方よ。

省吾

派手って訳でもないんだが…

房子

派手じゃないけど目立つ…みたいな…

新之助

男好きするんだ、あれは。

一子

河野先生って、ご結婚は？

陽介

結婚なさってるし、5人も娘さんがいるよ。

一子

えええ？

新之助

短歌はいいのを書くようになったぞ。

省吾

恋は芸のこやしとも言いますしね。

新之助

そうだ。こやしだ、こやし。

陽介

この間も、麻里子さんの家の前をずっとうろろろしていたらしいんだよ。毎日、こんなに分厚い手紙も届くってさ。

新之助　　そんな調子で、本業のほうは大丈夫なのか？

房子　　（二子に）河野先生は、日本でも指折りの物理学者で大学で教鞭を取ってい

らっしゃるの

一子　　まああ。すごい方なのねえ。

輝代が乳母車から離れるとすぐにまた赤ん坊の泣き声。

輝代　　また…（溜息）

一子　　（立ち上がる）

房子　　いつも一子ちゃんでは悪いわ。

房子が乳母車へ。すると赤ん坊がギャン泣き。

房子　　あら…？輝代さん、すみません…

女給　　私があやしますわ。

子供の好きな女給が、乳母車ごと奥へ。赤ん坊は、もう笑っている。

新之助　　肝心の母性が不足しとるんじゃないか？あんなに赤ん坊に泣かれちゃ、房

子君の将来の道のりは険しいな。な、河野君。

河野　　え？あ…はい。

輝代　　房子さんが来ると、私が取られるって、もう分かっているのかしら

房子　　そうかもしれない

省吾　　あれ？君、アトリエに来ていたっけ。

房子　　はい。お子さんが生まれる前から何回も…

輝代　　あなた、演劇の稽古に夢中で気が付かないのよ。

すると、麻里子と悟。悟は麻里子が雨に濡れないようにと自分の上着をかぶせてやっていて、明らかに距離が近い。

悟　　すみません。遅れてしまいましたか？

新之助　　大丈夫だ。君らが来てから始めようと話していたからね。

悟　　申し訳ないです。

輝代　　すごい雨ねえ…

麻里子　　ええ。私が傘を忘れて困っていたら、ちょうど悟さんが…

輝代　　ちょうど…

麻里子 ええ。ちようど。

輝代 それは？

麻里子 日傘です。

悟 濡れなかった？

麻里子 ええ。私は…でも…

一子 干しておきましょうか？上着。

悟 ありがとうございます。

輝代 私の女学校の後輩で、房子さんと同級。

一子 佐藤一子と申します。

悟 吉岡悟です。河野先生の直属の部下と言ったらいいのかな。

一子 愛弟子ってこの方！

房子 （しー！と言いながら、うんうんうなずいている）

悟 愛弟子…だったかもしれないな。物理をやっています。おや。河野先生は、ま

だいらしていないんですか？

新之助 さつき、飛び出していったが…

悟 あ！！レポート！！

麻里子 どうしたの？

悟 先生に今日中に渡さないといけないんだが…（レポートが濡れていないこ

とを確かめながら）ああ、よかった。無事だった。

麻里子 私のほうばかりに傘をさしてくださるから…

悟 いいんだよ。大丈夫だったんだから。

新之助 （咳払い）さてと、課題は「夜」だったな。

房子 待たなくてもよろしいんですの？

新之助 きりがない！始めるぞ！

と、新之助が言うが、みな、外の雨や同時に様々なことを気にしている

新之助 えー（咳払い）

みな、なんとなく目を伏せたり、お茶を呑んだり。

新之助 はじめは、省吾君から、こういう回りで行くか。

省吾 では…。「燭の火を きよき指に おほひつつ 人はゑみけり その束の間

を」

一子 素敵…

悟 画が浮かびますね。

一子 仲がよろしいのね、お二人は。
房子 え？
一子 だって、省吾さんと微笑み合ったのは、輝代先輩に決まってるじゃないの。
房子 ああ！
輝代 (笑って) 次、私の番ね。「小夜ふけて 湯にひとり聞く 谷川の ころろ
ひとつに 音まさりゆく」
新之助 ほう…。川のせせらぎが聞こえてくるかのようだな。
悟 そうですね。
新之助 そこはかかない色気も感じられる。女性が作る句はこうでなくっちゃな。
悟 こういう唄を聞くと、奇抜さを狙う昨今の流行は本当に薄っぺらに思えま
すね。
新之助 そうそう！自己とも本心とも遠ざかってしまっている！アララギ派は古典
に没頭したなどというやつもいるが、古典を知らずして和歌を語るなど言
いたいな。
悟 ええ。次は…僕ですね。「湯を出でて 夜の廊下の冷たきに ふと胸騒ぐ
君を一人おきて」
省吾 何やら、秘密めいた匂いがしますねえ。
一子 (房子に) ドキドキするわね。
新之助 次、儂だな。「車夫の 提灯(あかり)をかりて 鍵開くる 夜更けて着き
し ひとりの我が家」
陽介 浮かびますねえ。御酒を過ぎた新之助さんが、いい心持で家につく。けれど、
家族は一人も起きやしない。一人で寂しく、鍵を開ける。と。
一子 寂しいわねえ…
陽介 その寂しさを共感するってのが、うたの楽しみの一つだろう？
悟 「車夫の提灯をかりて鍵開くる」上の句だけで、明かりのついていない冷た
い部屋が想像できるのもいいですね。
一子 私、嫌だわ。
新之助 そりゃ一子ちゃんは女性だからね。君が作る家庭は、暖かな明かりがともつ
た家だと思うぞ。
省吾 新之助さんを、待っていてくれるのはハチだけですからね。
陽介 秋田犬な、秋田犬。
悟 そうそう。もう、おばあちゃんだがな。一途だぞ、犬は。
陽介 陽介さんの番ですよ。
輝代 そうか。(咳払い)「ミュンヘンに わが居りしとき 夜更けて 陰の白毛を
切りすてにき」
まあ。

新之助

(爆笑) しかし、陽介君、まだ若いのに…

陽介

新聞社にいたころですよ。慣れないヨーロッパ出張で、心も体もやられたことを思い出しまして…

房子一子

(ドン引きしている)

新之助

固まっちゃったよ、この子たち(楽しいらしい)

輝代

次、貴方よ。

房子

あ。はい。「早く寝た 次の日の朝 爽やかに ご飯もおいし 空気もおいし」

皆

…

房子

どうですか？日々の生活を写し取って見たんですが。

新之助

君は…

房子

はい。

新之助

恋をしなさい。君は

みんな、笑う

陽介

ある意味、毎回楽しみだよ、君のうたは。(笑っている)

房子

どういう意味ですか？

新之助

じゃ、麻里子君が恋の歌のお手本を見せてやるとするか。

麻里子

いえ、そんなお手本だなんて。このうたは…

新之助

ま。読み給え。

麻里子

「やうやくに 桑やりおへて たすきながら すわる夜更けを こほろぎ 鳴くも」

すると、濡れ鼠の河野が登場

河野

いいものですねえ。麻里子さんが見た田園の風景を僕も一緒に見たような気がします。

悟

先生！いつの間に？

河野

日々の生活を写しとっているうたは、「生のあらわれ」です。素晴らしい。

悟

それより上着をお脱ぎになったほうが

河野

上着？

一子

私、干してきますわ。

悟

ありがとうございます。

一子は、再び上着を干しに行く。悟は河野を、拭いてあげようとする。

河野 いや、いい。

麻里子 ご自分でなさるんですってよ。

河野 ええ、ええ。自分で。

新之助 驚いたよ。突然飛び出していくんだから。

河野 雨に濡れたら大変ですから。

新之助 ん？ああ。

河野 すれ違ってしまいました。麻里子さん、雨には濡れませんでしたか？

麻里子 ええ…

陽介 濡れちまったのは、悟くん。

麻里子 そうなんですの。私が濡れないように…

悟 いや、レディーファーストですよ。

陽介 おお。洋行帰りの紳士は違いますなあ。

悟 陽介さんもミュンヘンに行かれてたじゃないですか。

一子 ミュンヘン！

陽介 知ってるの？

一子 いえ。どこですか？

悟 (笑って) ドイツだよ。僕はミュンヘン大学に留学していたんだ。河野先生がお話になっていたハイゼンベルクの不確定性原理をじかに学びたかったんだ。

新之助 ま。全員そろったからね。席にっこうじゃないか。

と、全員が席につく。無言。新之助が咳払い。

悟 新之助さん、今日の一のうたを…

陽介 あ。河野先生がまだですよ。

すると、女給が走ってくる

新之助 なんだ。どうした？

女給 今夜は何時にいらっしゃいますかって。

新之助 昨日行かなかったただけだぞ。菊丸は、しょうがないなあ。

女給 (輝代に) よく眠っていますわ

輝代 よかった。助かるわ。

省吾 お盛んですねえ。

新之助 君も行くか？

省吾 いいですね。

輝代 (心の声がダダもれる。相当な小声) 24時間赤ん坊と顔を合わせてるのは

私なのに。いい気なもんだわ。少しは手伝うとか考えないのかしら。

省吾 やめときますか。

新之助 海に風が吹くころには行こうと伝えておけ。

女給去る。

陽介 好きですね。

新之助 いい女と出会わんでどうする！一度しかないんだぞ、人生は。

一子 ああ(深く感心)

房子 ええ？

新之助 とにかく、玄人が一番だぞ。あとくされが無いしな。

悟 奥様も傷つきませんしね。

新之助 そうだ！みんなに優しい恋愛。河野君も、な？

河野 なんですし。

新之助 もっといるだろう、女は。とにかく、素人はまずい。粹でない。な？

麻里子 河野

輝代 … 玄人の方とお遊びになるのは結構ですけど、それで不幸な花嫁を作つて

しまうことに私は反対ですわ。

新之助 ええ？うちのはいいって言ってるぞ。玄人なら構わないとはつきり言つてる。

輝代 ご主人の花柳病をうつされてしまって、身体を壊してしまった友人がいるんですの。それが原因で離縁されてしまつて…。とてもおかわいそうなんですの。

新之助 花柳病？

陽介 そいつは酷いな。

輝代 ええ。そうなんですの。それならば、花柳病の男性の結婚を禁止する法律を作つてもらえないかと。先日も衆議院の高橋議員へ、私達、新婦人の会の機関誌をお渡ししたところですよ。ね？

房子 ええ。輝代さんが、文章を考えて。

陽介 君も高橋議員に意見したのかい？

房子 いえ、私は…。輝代さんについていただけで。

陽介 意見すればよかったのに。新鮮だっただろう、そうすれば。

房子 いいえ。まだ意見できるほど学べていません。女学校では、学びたいことは学べませんでしたし。

新之助

難しいことは、男に任せておけばいいんだよ。そんな、わざわざ…

房子

私、そこにひっかかるんです。私がそうであったように、知る機会が無いから女性は発言していないだけじゃないかって。

新之助

理解する能力が違うだろう、そもそも。

輝代

もちろん、優れた方は男性に多いと思いますわ。

新之助

そりゃそうだ。

房子

そうでしょうか。本当に埋もれているだけじゃないかと思うんです。この間知ったことですけれど、治安警察法で女性は集会や政治的な講演に参加することを禁じられています。これはなぜなんですか？

新之助

女だから、当たり前だろう。

房子

女だから、政治のことを知らないでもいい。男だから浮気は甲斐性だ。どうしてなんでしょう？

陽介

なるほど…な。

新之助

だから、そういうもんだろう。昔から決まってるんだ。足はどうして二本なんですかって聞いてるようなもんだ。

房子

う…

輝代

新之助さん、お嬢さんがいらっしやいますわね。

新之助

うむ。4人とも女だ。ハチまで雌だからな、男は農一人だ。

輝代

もし、お嬢さんが妻子ある男性に手を出されたらどう思われます？

新之助

許さん！断じて許さん！！！

房子

どの女性にも父親はいます。そのことをお考えになりませんか？

新之助

ああ？

房子

自分の娘に対する思いやりを、女性全体にも持っていていただきたいものですわ。

新之助

君らは女性の解放には熱心だが、既婚男性の解放には不寛容だ。それこそ、

悟

不公平じゃないか。なあ。(笑う)

新之助

確かにそうですねえ(笑う)

一子

男は縛られていてはいい仕事ができん！

新之助

でも…

一子

じゃあ、一子ちゃん。浮気はするがとても男前。浮気はしないが全くさえない男。どちらがいい？

新之助

うーん…

新之助

な！だから、浮気で、素人でなければ何の問題もないだろう

麻里子

新之助さん。私の幼馴染の話をしてよろしくて？

新之助

ん？ああ。

麻里子

すえちゃんって言って、とても小柄な華奢な子でしたわ。私の田舎は貧しく

て：飢饉が来るたびに娘の身売りが後を絶ちませんの。すえちゃんも、家の借金のために身売りさせられたんです。実の娘でも、売る親があるんです。それだけ貧しい家庭があるんです。すえちゃんは、働きはじめ：二度身ごもり、二度目の中絶で：亡くなりました。

一子　まあ。

麻里子　すえちゃんは：仕方がなかったんですか？素人じゃないから仕方がなかったんですか？

麻里子は泣く。つられたように奥の赤ん坊も泣く。房子が行こうとするのを一子が止め、輝代が奥へ。

新之助　なんだなんだ今日は…。

悟　新之助さん。今日は…。

新之助　終わりだ。終わり！

悟　次回はまた再来週の土曜日でいいですか？

新之助　ええ？任せる！

悟　課題はどうしましょう？

新之助　課題？「終わりゆく夏」：「晩夏」だ！

新之助、言い捨てて去る。帰り支度を始める皆。河野が麻里子にメモを渡す。麻里子、メモに目を通す

麻里子　（房子と一子に）残っていてくださる？

房子　え？

麻里子　：二人きりで話したいと言われましたの。私、思い切って金輪際こういうことは辞めてくださいってお伝えしようと思うの。

房子　ええ！

麻里子　でも、二人きりになるのは怖くて…。助けてくださる？

房子　一子ちゃん、いい？

一子　ええ！

みんながそれぞれ帰っていく中、房子と一子は帰った振りをしつつ部屋に残って盗み聞きを始める。

河野　やっど：二人きりになれましたね。

麻里子　こういうのはもうやめていただきたいの。おっしゃいたいことがあるのな

河野 　　ら、皆さんもいらっしやる前で堂々とおっしゃばいいのではなくて？
　　：いいんですか？堂々と言っても。

麻里子 　　困るのは先生のほうですわ。大学教授という立派なご職業でいらっしやいな
ながら…。それに、ご家族が悲しみます。

河野 　　ああ。私のことを心配してくださいさるんですね。

麻里子 　　先生よりも、ご家族が心配ですわ。奥様も、5人の娘さんも…

河野 　　いいんだ！私はもう別れる覚悟はできている！

麻里子 　　なら、お別れになつて。

河野 　　麻里子さん！

麻里子 　　私とも、金輪際会わないでいただきたいの。

河野 　　麻里子さん。貴方を失つては私は…。夜の海に浮かぶ一層の小舟なんです。
貴方は灯台だ。私にとって生きていく唯一の明かりなんです。

麻里子 　　私は？私の気持ちは考えてくださらないの？

河野 　　：前のご主人に、気持ちが残っているんですね。

麻里子 　　まさか。もう何年も会っていませんわ。

河野 　　：あの美大生ですね。しよちゆう貴方の家に来ているじゃありませんか。

麻里子 　　あなただつて、毎日のように玄関の前でウロウロしてらっしやるでしよ

う？

河野 　　：吉岡ですか？

麻里子 　　：悟さんは、心配してくださいさっているんです。優しい方ですから。

河野 　　何をです？

麻里子 　　私が、貴方に困っていることをです！！

河野 　　：ごめんなさい。貴方を困らせるつもりなんて毛頭ないんです。私は…なん
でもする。貴方のためなら、何でもしたいんだ。靴を舐めろと言われれば舐
めましょう。

麻里子 　　草履ですわ、私。

河野 　　あ…。いえ、貴方の前にひざまずいて貴方の脚に口づけだつてしたいくらい
なんです。

麻里子 　　そんなこと頼んでません！

間。 河野はしよぼくれる。

麻里子 　　：奥様は？何ておっしゃってるんですの？

河野 　　いいんです。あれが何と言おうと。麻里子さんさえ、うんと言ってくださいさ
れば私は…何もかも捨てたつていい。

麻里子 　　うた会で短歌と一緒に詠み合つて…充分楽しい時間を過ごさせていますわ。

河野 あなたは…意地悪だ。私の思いを知っているくせに…。手紙は読んでくださっているでしょう？

麻里子 毎日毎日あんなにたくさん…読み切れませんわ。

河野 いいんですいいんです！私は、麻里子さんを困らせようなんて思っていない。私の思いは、手紙では書き切れない。

麻里子 私の家の周りをウロウロするのだけは辞めていただきたいの。近所の人から…あることないこと言われるんですもの。

河野 それは酷い！私が言っただけでやりますか！

麻里子 やめて！！もう私を…困らせないで。

麻里子は泣く。泣いた振りかもしれない。

河野 ああ。私のためにお泣きになるんですね。ああ…申し訳ない…私が…

河野はウロウロする

河野 麻里子さん。私は…貴方に懺悔をしなければならぬ。私にとって麻里子さんは穢れなきミューズなんです。しかし私は…

麻里子 ……
あなたの前で隠し事をするなんて罪だ。私は…

河野 ……なんですか？

麻里子 私は生まれて初めて女性を買いました。彼女と肌を重ねながら、ああ、こうして肌を重ねるのがあなたであればと何度も何度も…

房子 最低！！

一子 しー！！

房子 だって失礼じゃない？誰に対しても。

一子 房ちゃん、黙って。

河野、いきなり土下座

河野 一度でいい。たった一度で構わない。そうすれば私は…

麻里子は、土下座する河野の傍に立ち、持っていた日傘で河野をたたく。

河野 痛いっ！痛いっ！…でもいいんです。あなたからの痛みであれば私は…

房子 気持ち悪い。

一子　　しー！！

河野が、腰ひもを出し、自分の首にまく

河野　　貴方に受け入れられなかったら、私など生きている甲斐がない！

麻里子　おふざけにならないで！

河野　　ふざけてなどいない！貴方が手に入らなければ死んだ方が：

麻里子　　あらそうですの。じゃあ、本気を見せてくださいいな！

河野は自分の首を絞め始める。

河野　　私の愛は、本物だ！！……ううっ…

さすがに、麻里子も止めようとしますが、河野の力は弱まらない。河野が動かなくなり（まさか、死んじゃった？）と三人。

麻里子　　河野先生！どうして私なんかのために…

と、悲劇のヒロインながら泣き出し、房子と一子は呆然とし、さすがに医者を呼ぼうとする、河野が息を吹き返す。

麻里子　　…先生？

河野　　麻里子さん…

麻里子　　先生、私なんかのために…

河野　　私は、あなたのために何もかも捨てます！妻も子供も、大学教授という地位も…貴方さえいれば…

麻里子　　本当に、死のうとなさるなんて…

河野　　貴方のためなら命だって惜しくはない！

麻里子　　河野先生っ！

と、二人は抱き合い、二人の世界。一瞬、素敵…とうつとりする一子。

河野　　さあ、行きましょう。

麻里子　　ええ。

河野と二人は外へ。

房子 一子ちゃん、追うわよ。
一子 ちよつと素敵…つて思っちゃったわ。
房子 ええええ？

追って二人も外へ。すると、もう一人この様子を隠れてみていた男の影。
その影は悟。その悟を清子が見ている。
明かりが変わっていく

3場

その一週間後 ラ・コパン
新之助を取材する輝代と房子

新之助 それぞれだ！ひとそれぞれ！

輝代 構いませんわ。男子の性欲に対して新之助さんご自身の経験と、お医者様を
なさつての見解というものがあるでしょうから、それをうかがえれば。

房子 時間帯というのは、関係しますの？

新之助 ええ？まあ、夜…か。夜だな。

省吾 酒も飲みますしね。

新之助 酒な。飲むと、なんで綺麗に見えるんだろうな。

省吾 (笑って) 確かに。

房子 やはり、飲酒は関係するんですね。

輝代 そうね。

房子 夜、仲間と一緒に酒を飲んで、別れて夜道を歩くとき…(メモする)すると、

夜道で偶発的に出会った女性に抑えきれない性欲を抱きやすいということ
でしょうか。

輝代 夜道は気を付けなくては駄目ね。

房子 女一人で歩くのは危険ですね。…偶発的…、では誰でもいいわけですか？

そんなことはない！ま。もしかしたら飲んだ時に君にあつたら、なにかしら
あるかもわからないな。(大笑い)

房子 (引いている)

新之助 それになあ…飲みすぎると駄目になるしなあ。菊丸は飲ませ上手なんだよ。
今日こそはと思つても、気が付くと…な。

省吾 ありますねえ。

輝代 (にらむ)

省吾 いや、男つて言うのはそういうもんなんだつて。

房子

ダメになるといふのは、何がですか？

新之助

だからここが…おいつ…！あのなあ、男のほうがよくほどロマンを持って恋愛に望んでるぞ。な？

一子

え？（真つ赤になつて俯く）

省吾

ダメですよ、からかつちゃあ。

新之助

いいなあ。こういうのがいいんだよ。恥じらう姿つて言うのが見たいもんなんだ、男つて言うのは。君には全然ないからな。そのくらい工夫したまえ。

房子

恥じらう…例えばどういふ？

新之助

いやよいやよも好きのうち、のような…な？

省吾

まあ。すぐになびくよりは、多少じらされたほうが…

新之助

そうそう。焦らされるとな。ますます…な！

房子

いやよいやよは、本当に嫌なんだと思います。

新之助

違う違う。

房子

男性の都合のよい曲解です。

新之助

なんなんだ。君は男を知らんだろう。だからいかん。男と女にはな、駆け引きを楽しむつて言うのがあるんだ。な？

輝代

それは…

新之助

な！君には色気つてもものがないよ。

房子

なぜそんなにまで言われないといけないんでしょう。

輝代

房子さん。

房子

…では、駆け引き後、抑えきれない欲望が盛り上がつてきた場合、どのように対処を？

新之助

君なあ…。ロマンだよ。ロマン！優しくしてくれる女性を求めたくなるもんなんだ。そういうもんだ。

輝代

年齢による変化といふのはありますの？

新之助

ええ？若いころ？いやあ、若いころは、夜だろうと朝だろうと関係ないな。

もう、一日中女性のことを考えていたと言つてもいい。しかし、経験を経ると、だ。この女性は綺麗だが、後々大変なことになりそうだと、とか。顔はまづいかなかなかだとか、いろいろ分かつてくるわけだ。恋はロマンだ、非日常だ。日常のごたごたが入り込んでくるようなのは…わしは感心せんがな。

輝代

ロマンは大切ですわね。

新之助

だろう？君、分かるか？ロマンだぞ。マロンじゃないぞ（大笑い）

房子

（引いている）

輝代

けれど、共に暮らして育んでいくものもあるのではなくて？

新之助

省吾君。君は、どうだ？新しい女と暮らすつて言うのは。

省吾 (笑って) 日々発見ですよ。

新之助 新しい女ってのは…。今日だって、いきなり「男子の性欲についてお話を伺いたいのです」なんて言われて、顎が外れるかと思っただぞ。

輝代 私達、新婦人の会は花柳病男子の結婚についての制限を目指していますの。原因を知り、根本から理解しなければ解決には迎えませんでしょう？

新之助 省吾君。君も聞かれたのかね？

省吾 ええ。新之助さんで6人目です。

そこへ陽介が、新聞を持って現れる。

新之助 おお、陽介君。ちょうどよく7人目が来たぞ。

陽介 なんのことです？これ、お読みになりましたか？

と、皆のいるテーブルに新聞を広げて出す。

新之助 これは…

陽介 「河野教授を食った妖婦水原麻里子。」

新之助 何？駆け落ちしたのか？

房子一子 駆け落ち？

輝代 麻里子さん、嫌がってらしたわよね。

省吾 逃げ回っていたよなあ。

陽介 どこで嗅ぎつけたんだか…

省吾 「河野教授の邸に悪魔が出入りすると噂が立ったのは、二年越しの旧聞である。」…

房子 日本新聞に、毎朝新聞…

一子 お二人の写真まで！

陽介 他にとり上げなければならぬことはいくらでもあると思うがなあ。

一子 私、もしかしたらって思ったわ。

房子 ええ？

一子 駆け落ちまでするとは思わなかったけど。

新之助 なんてことをしてくれたんだ…河野君も麻里子君も！

省吾 驚きましたね…

輝代 まさか、ねえ。

陽介 この手の話題ってのは、早いなあ。

新之助 破門だ！河野君も麻里子君も、この「山荷葉」から除名する！

省吾 破門だなんて重すぎますよ。ほとぼりが冷めるまで謹慎させるとか、他に方

法はいくらでも…。

輝代　　そうですわ。さすがに破門は…

新之助　（新聞を指し）醜聞だろう、これは。こんな扱い方をされたら、どんなうたを詠もうと…。芸術に…あつてはならんことだ。

房子　　恋は芸のこやしだとおっしゃっていませんでした？

新之助　言った。言ったがな。恋に溺れてしまつては身もふたもない。

悟　　日本でトップの物理学者だから記事にされた…。面白おかしく書きたてられたら、先生の地位も面目も丸つぶれです。

輝代　　悟さんは、お二人の除名には賛成？

悟　　先生は…：大学に辞表をお出しになりました。大学の辞職は先生ご自身で決めたことですが、破門となると…。短歌は先生の本業ではありませんが、辞職と除名では全く意味合いが違つてしまう。

陽介　　築き上げた地位を取り戻せなくなるかもな。俺も、破門まではしなくてもと思うがなあ。

悟　　先生が一線から退いてしまうと、日本の物理界はダメージを受けますし…。

一子　　あの人、本当にすごい先生だったのね…。

房子　　止めたらよかつたのかしら。

一子　　無理よ、無理だったわ。

輝代　　あの二人を失うと「山荷葉」のうたの幅が狭くなつてしまうということもありませんわね。

省吾　　麻里子さんの句は最近話題になることも多かつたし、なによりあの与謝野女史から認められたというのは大きいからなあ。

一子　　まあ！与謝野女史から！

陽介　　麻里子さんにしたら、犠牲者だろ？相当嫌がついていたよな。俺も相談を受けたことがあるぞ。

房子　　私、さっぱりわかりません。あんなに嫌がついていたのに

陽介　　無理やり道連れにされたんだろう？可哀想に。

新之助　　儂のように粹にやればいいんだ。

房子　　粹？

新之助　　君には一番分からんことだな。（笑う）悪いことを全く知らんつていうのも人生つまらんぞ。どうだ？ためしてみるか？（肩を組もうとする）

房子　　（それをよけつつ）悪いことなどして生きてたくはありません。

新之助　　つまらん女だなあ。河野君もつまらんことになったよ。素人で蹴躓くとは。

房子　　素人、玄人つて。そればかりじゃないですか

輝代　　房子さん

房子　　一貫性が無いんですよ、言うことに。

輝代 あなたと違って、新之助さんには立場とか、いろいろおありになるんだから。いい、いい。聞こうじゃないか。

房子 では言わせていただきます。新之助さん、あなた山荷葉の会で私に、「物事は白黒だけじゃない。線引きがあいまいな、見方によっては何色にも見えるということがある」そうおっしゃいましたね？

新之助 ああ、言った。

房子 けれど新之助さんの女性に対する見解を聞いていると、男だから、女だから、玄人だから、素人だからと線引きだらけです。

新之助 それは：芸術と生活は違うだろう。

房子 芸術は生活から生まれる。これも貴方がおっしゃった言葉だと思いますが。うっ…

房子 百歩譲って、産まれた時から男は男、女は女です。けれど、玄人はどうなんでしょう。玄人の方は生まれた時から玄人ではありません。なりたくてなった方ばかりでもありません。家が貧しくて、大勢の兄弟たちのために働きに出た途端、偏見に満ちた扱いをされるっておかしくありませんか？

新之助 (笑って) 君も、『新しい女』ってやつだったな。どうも地味だから忘れていたが

輝代 それも偏見じゃございません？新之助さんにとって「新しい女」というのはどういう女を指すんですの？

新之助 君が代表みたいなものだろう。女だてらにしゃしゃり出て、タバコも酒もやって、世の中を騒がせるような女だ！

輝代 桜の花びらだって、一枚一枚違うものだ。これも貴方がおっしゃったことですわ。

房子 そうですよ！輝代さんと私じゃ、どこをどう見たって同じじゃないでしょう？すぐひとくくりにするのは、よくない癖です。

新之助 なっ？

房子 前から感じていたのですが、言葉に詰まると「そういうもんだ」「あいつが言っていた」「前からそうだった」と責任逃れをなさいます。言葉を生業にする方であれば、自分の言葉に最後まで責任を持ってもらいたいわ。

新之助 なにいつ？

房子 麻里子さんのご友人の話、聞いたでしょう？なんとも思わないんですか？

省吾 房子君、新之助さんに向かって…

二人を止めようとするみんな。

新之助 死んでしまった女郎だろう？そもそもあの女も女郎のようなところがある

房子
類は友を呼ぶってやつじゃないか？
な…

輝代
「女郎のような」。それは具体的にはどういうことですか？
だから、なんというか、その…

房子
そうですね！女郎は、金銭と引き換えに肉体を、主に性器を提供する職業です。その職業を例えに出すというのは、どういう…

新之助
君こそ言葉を選べ！！枕を共にするとか、いくらでも言い方はあるだろう？女だてらにこの儂に向かつて。普通は

普通？

房子
もつと、普通になりたまえ！

新之助
すみません。これが私の普通です

房子
無礼者！生まれ！女のくせに！

房子
ほら！これですよ！芸者のくせに、女郎のくせに、妾のくせに、女のくせに！すべて男性の都合で作られたものです。あなたの中には、圧倒的な差別的価値観があるんです！普通選挙だってね、普通の中に女性が含まれていないことに何の疑問も抱かないあなたのような男性が多いのが大問題ですよつ。

新之助
はあ？

陽介
普通選挙？

新之助
どうして突然選挙の話になるんだ？

房子
私達の生活は、憲法に守られ、法律に縛られています。その法律は、議会で作られます。議会を構成する議員に女性が一人もいない。その議員を選ぶ権利すら与えられていないままでは、男性にとって都合のよい社会が続くばかりです！

少し間

新之助
：君にしても、輝代君にしても！理屈っぽい女は好かん！いつから湧いて出てきたんだ！？

房子
湧いて出たって何ですか？人を虫みたいに…

新之助
虫みたいなもんだ！大きな顔をしているがな、あつという間にぺしゃんとつぶされてしまっんだ！

輝代
聞き捨てなりませんわ！そんな言い方、品位を疑いますわ。

新之助
品位を疑われるのは君たちのほうだ！！女だてらに「男子の性欲」について堂々と質問するだなんて

輝代
必要だからです。私達は理想を実現する使命があるんです。

新之助 そんな理想、誰も求めてないっ!!それにだつ。あんなこと真面目に聞かれ

たら、君だつて萎えるだろ?

省吾 いや…はあ…

新之助 恋は雰囲気だ!ムードだ!空気だ!恋愛と言う美酒に酔うんだ。君ら新しい女っていうのは…全く…。とにかく、あの二人は破門だ!!

と、宣言し出ていく。

省吾 ……どうする?一応、謝っておいたほうがいいと思うけれど。

輝代 私達、謝るようなことなどしてないわ。ね?

房子 ……はあ

省吾 だから、一応だよ。

輝代 あの人の顔をたてるため?結局いつもそうじゃないの…。

房子 ……言いすぎましたかね、やっぱり…。

陽介 痛快だったよ。君があればと言えるところは。

房子 皆さん、呆れてましたよね…

陽介 気にすることは無い。あの人は、瞬間湯沸かし器だから。

房子 ……ああ。

陽介 すぐ沸騰するけど、あとはけろりとしてる。明日には忘れてるさ。

房子 そうだといいんですが…

陽介 普通選挙に対する意見は驚いたよ。君がそこまで考えていただなんてね。

房子 はあ。でも、言葉を選ばないといけませんね…

輝代 (笑って)確かにね。

陽介 房子君。君、論文を書かないか?

房子 え?

陽介 輝代さんには前から連載をお願いしているんだが…。君にも、うちの雑誌に書いてもらいたい。輝代さんの民衆の心をとらえる文章、房子君の新しい見地、これが並んだら…!

輝代 ……そうね。違う視点が入るのはいいわね。

陽介 ええ。周りを巻き込んでいくには、これからは泥臭いくらいの意見が必要になつてくる気がするんだ。

房子 私の…意見がですか?

輝代 ねえ、房子さん、私と一緒に『新婦人協会』を動かしてはくださらない?あなたと私、二本柱で進めば、見たことが無い未来が開けてくる。そう思わな

房子 未来…

一子 房ちゃん、すごいわ！

輝代は房子と握手。

輝代 今までは私やみんなの意見をまとめてくれていたけれど、これからは違うわ。貴方自身の意見が必要になるの。

房子 はい！…あの、なに？

房子 私、前から、治安警察法の第5条には違和感がありました。なぜ女だから政治の集会や講演に行ってはいけないのかというのがどうしても納得がいかないんです。

輝代 そうね。その通りよ。「女性の権利」は私達女性が守っていかなければ。

一子 すごいわ。すごいわ、房ちゃん。

輝代 新しく出す機関誌の名前は…「婦人同盟」はどうかしら？私達婦人が同盟を結ぶのよ。

一子 まあ…

輝代 女性一人では弱い存在だわ。でもね、手を携えるのよ。

房子 「婦人同盟」…いいですわね。

輝代 じゃ、決まり。婦人同盟の装丁は、省ちゃんにまかせるわ。新しい女の出発に相応しい、新しい絵を描いて頂戴。

省吾 そうだね。どうしようかな…

一子 楽しみですわ。

陽介 …俺の雑誌が先だぞ…

輝代 一子さんも手伝っていただけるかしら？

一子 …え？無理です。無理ですわ、私。

輝代 大丈夫よ、一子さんができることをなされればいいわ。

一子 いえいえ無理ですわ。私は、輝代先輩や房ちゃんみたいになれませんもの。それに…

房子 どうしたの？

一子 …房ちゃん。前に話した…

房子 え？

一子 私、お嫁に行くことになったんです。

輝代 まあ。おめでとう。

省吾 お相手はどんな方なんだい？

一子 私をお嫁にもらいたって父を訪ねて来た方がいて、一度お会いしたけりな感じですけど…。

輝代 その方のこと、お好きなの？
一子 嫌なら断ってもいいって父は言うんですけど、嫌とも思わなかったし…。
(房子に) 女学校の皆も、お嫁に行き始めているでしょ？(時計を見て) ごめんなさい。家の店番に戻らないと…。応援しますわ！ずっと。

一子は出ていく。

陽介 それぞれの道がある…か。しかし、「婦人同盟」とはいいね。対等な立場を謳うには、いい言葉だ。

輝代 ええ。対等、平等。これが鍵になってくると思うんですの。

房子 対等、平等…。

省吾 どういう「フロント」にするかな。固すぎないほうがいいね。

輝代 そうね。

房子 私、考えたんですが、歴史を紐解いても、他国を見ても、問題は全てと云っていいくらいに差別とつながっています。人種、国籍、貧富、男女…。この差別意識が争いの火種になる。戦争にも繋がってしまう。

陽介 そうだ。そのとおりだな。自分が差別されたときに、はじめて「差別」を意識する人間が多いと思う。だからさ、男尊女卑の風潮つてのは、男から問題提起されることはないだろう。房子君はじめ、女性から起こってくるものだ。

房子 ええ！私、輝代さんと…

気が付くと、輝代と省吾はいない。

房子 あら？輝代さん…

陽介 …帰ったのか？盛り上がると、あつという間に二人の世界だ。周りなんかちつとも見ていないんだからなあ。

房子 はあ。

しーんとする。二人きりになった房子は、途端に緊張し、入り口を開けたり不審な動き。

陽介 君は、何をしてるんだ？

房子 女学校では、殿方と部屋で二人きりになってはならないと…

陽介 そういうのを変えたいと思ってるんだろう？

房子 …はい

陽介 …いい月だな

房子 はい

明かりが変わっていく

3-2場 汽車

車掌

「新聞を読んでも」女流歌人との恋に悶えて河野博士辞職す。あの噂が立つてから責任を痛感して自宅に籠る。国宝とまで推奨された世界的学者の迷いの心」

汽車の席には並んで座る河野と輝代。道行きですか？と言うような雰囲気。

音楽

汽車の別席にそれぞれ輝代、房子が原稿を書いている。論文が読まれていく。離れた席に一子と幸助。清子は別席（別空間）から見ている感じ。

輝代

「幸せにするものは、宗教家や思想家が考える無我的な博愛的な愛ではなく、血肉ある婦人の本能、利己的にして他己的である慈愛、母の愛……」

房子

「一度、議会を傍聴した方は誰でもすぐにお感じになるでしょうが、現在の議会では事の善悪よりも党派の感情で決められる有様。この状況から請願を通すには新思想家、理解を示す4人に協力を願う……」

輝代

「いわゆるブルジョア婦人もプロレタリア婦人も、婦人としての共通の立場を確実に意識したなら、全婦人が団結するのは決して不可能ではない」

二人

「我等女性 政治の基礎にも強く立たん」

♪婦選の歌が聞こえてくる

輝代と房子は口ずさみ、陽介は二人の原稿を読み意気揚々としている。その光景を見つ

つ、一子は幸助について汽車を降りていく。4人の女性のそれぞれの道筋が見えるよう

な。

4場

汽車

1928年（昭和3年）9月25日

曲の中で、河野はいなくなり、麻里子が一人になる。

車掌

「新聞を読む」歌人水原麻里子女史、愛の巢を飛び出す。行ける人形の悩み……昭和3年9月……」

麻里子は短歌をつぶやく。

麻里子　　：心ひらきて　我にあかさぬ夫とゐて　七年を耐へし　寂しさはてなし
：信じあへり　しか思ひつとなほ寂し　何事もあかさぬ　夫(つま)とくら
して

麻里子は真つ赤な口紅をひく。明かりが変わると、「ちよつと房子さん！」という記者の声が聞こえ、隣の車両から輝代と房子。ドアを閉めて

房子　　（大きなため息）

輝代　　疲れるわね、さすがに。

房子　　はい。すみません。

輝代　　いいわよ。しばらくうっちゃっておきましょうよ。

房子　　え？麻里子さん？

輝代　　まあ。お久しぶり。麻里子さん。

麻里子　　まあ：輝代さん。房子さん。どうして？

房子　　同じ列車だなんて

麻里子　　ええ

麻里子　　：今さらですけれど、あの時はすみませんでした。「山荷葉」のみなさんにはご迷惑をおかけしてしまつて：

輝代　　あれからもう：

房子　　7年ですわ。

輝代　　早いものね。お元気でお過ごしでしたの？

麻里子　　ええ。もともと田舎の出身ですから、田舎暮らしは慣れているようで：

輝代　　熱海の奥のほうと伺っていましたけれど。

麻里子　　ええ。小さな一軒家を借りて：。静かに暮らしていましたわ。

輝代　　今日は河野先生は？

麻里子　　（首を振り）私、出てきてしまいましたの。

房子　　え？

輝代　　それは、お別れになつたということ？

麻里子　　ええ。

輝代　　そう：。じゃあ、ご実家にお戻りになるの？

麻里子　　あれだけ大騒ぎになつてしまいましたし：。今更実家にはとても：。小さな村ですもの。男性と話をしていただけで、村中の噂になるような：。そんなところですから：。

房子　　どうして出てきてしまわれたんですの？

麻里子

私は…夫婦は、夫婦同然の関係であれば、心配事も、悩みも、不安も共に打ち明け合うものだと思いますの。けれどあの人は…何も話さないんです。私に打ち明けても無駄だと思ってるんじゃないかしらと思ってしまうほど…。

房子

じゃあ、大きな喧嘩をなさったとか、他に好きな方ができたとかそういうんじゃないんですね。

輝代

でもねえ、積み重なっていくものよ。男と女と一緒に住むということは…ええ。…けれどももしかしたら…

房子

もしかしたら？

麻里子

河野には、新しく女ができたのかもしれない。

房子

ええええ？

輝代

房子さん。

房子

すみません。

麻里子

いえ、いいんですの。驚きますわよね。

房子

ええ。だって、あんなに夢中だったのですもの。

麻里子

色あせてしまってますわ。手に入れた瞬間から、時と共に。

房子

麻里子さん。うかがってもいいかしら。

麻里子

え？

房子

そもそも、どうして駆け落ちしたんですの？あんなに嫌がってらしたのに。

輝代

房子さん。今はいいでしょう。

麻里子

いえ、いいですわ。私だって、そんな気は全くなかったんですもの。

房子

ですよね。だって、吉岡さんの方が仲良く見えましたもの。

麻里子

悟さんには、相談に乗ってもらっていたんですの。

房子

相談？

麻里子

ええ。河野の相談を。…二年近くです。二年近く、毎日、会いに来ようとして、手紙を送ってきたり…。本当に困ってしまっ…。

房子

河野先生、ご結婚されましたしね。

麻里子

ええ。一度は河野先生の奥様に、私は全くそういう気はありませんし、ご家庭を壊そうなんて気はないってお手紙も書いたくらいでしたわ。「あなたのためなら何もかも捨てる」って何度も言われましたの。でも、大抵は口だけ

輝代

でしょう？

房子

そうなんですか？

輝代

そうよ。

麻里子

けれど、河野は、本当に大学教授と言う地位も、ご家族も捨てて、命さえ断

房子

とうとした。

輝代

あの日？

房子

あの日？

輝代

あの日？

房子

あの日？

麻里子

ああ！そうね。そう。あの時…私、感動してしまったんです。私のために命を捨てようとしたことに。ならば、私も何もかも捨てようと、その覚悟で河野と駆け落ちし、暮らしてきました。けれど今、本当に何もかもなくなってしまうましたわ。…純粋な愛って本当に存在するのかしら…。

輝代

麻里子

…そうね。
あの時は、信じられたんですね。

輝代

この男（ひと）こそ、最後の人だと思った…？

麻里子

そうですわね。（笑って）バカでしたわ。

輝代

麻里子さん…

麻里子

もう戻る場所が無いのはわかっているんです。けれど、少女の頃から詠んでいたせいなのかしら…気が付くとうたを詠んでしまう…

輝代

おかわいそうに。麻里子さん、短歌はお続けなさい。共に詠いましょう。

麻里子

輝代さん。ありがとうございます。貴方にそう言っていただけただけで私…

輝代

もう7年も経ったのですもの。私から、新之助さんには話してみてもいいわ。

麻里子、輝代の手を握ったままお辞儀をしている。すると、隣の車両から記者が「どこにいつちまったんだ？」と通り過ぎる。三人はとっさに気配を消す。記者が去り

輝代

…行ったわね。

房子

ええ、そのようです。

三人は、改めて座席に座り

房子

麻里子さんも、東京に？

麻里子

ええ。…上京している同郷の友人の家を訪ねるつもりです。しばらくはそちらにお世話になろうと…。

房子

そうですか。

麻里子

お二人は、なぜこの汽車に？

輝代

房子さんが…ね。

房子

ええ。

輝代

アメリカに留学なさっていましたの。私は、神戸まで迎えに

麻里子

まあ、アメリカに？

房子

日本新聞から派遣記者として行かせていただいて、アメリカの婦人運動を学んできましたの。

麻里子

婦人運動？

房子

アメリカではもう6年も前から婦人参政権があるんですの。

輝代 日本じゃ時期尚早だと言われているのに。

房子 けれど、その参政権だつて男女同権獲得運動のうちの一つでしかない。そうやってアメリカでは運動は続いているんですの。

輝代 すごい差ね…

房子 ええ。私達も続けなければ。

麻里子 どのくらい行つてましたんですの？

房子 二年近くになりますかしら。

輝代 アメリカに二年も暮らしてどんなに垢ぬけて帰ってくるのかと思つたら、ちつとも変わらないんですもの。

房子 洋装にはなりましたよ。

輝代 そう。洋装。でも足元は…足袋に草履。

房子 ハイヒールというものは、長く歩くのには向きませんわ。草履が一番。

二人は笑う

麻里子 お二人とも、ご活躍なんですね

「市田女史！」と声が聞こえ、記者が出てくる

記者 ここだ！ここにいた。お願いしますよ。

房子 すみません。ちょっと…

房子は席を外す。記者は麻里子を気にするが、麻里子は背を向けている。房子と記者は隣の車両へ。

輝代 米国留学から市川女史帰国ついで、汽車にまで新聞や雑誌記者が同行していますのよ

麻里子 まあ。すっかり有名人ですね。…輝代さん。お子さんは？

輝代 元気よ。あれからもう一人増えたの。

麻里子 まあ！お子さんがお二人もいらしてご活躍…。素晴らしいですわね。

輝代 私は、今は運動から少し離れているんですの。

麻里子 そうでしたの。でも、ちゃんとしたご家庭をおもちになつて…。羨ましいですわ。

輝代 麻里子さん、一度ご結婚をされたつて…

麻里子 ああ。若いころのことですもの。それも、望んでなつた夫婦ではありませんでしたし。

輝代 麻里子さんはまだまだこれから…

麻里子 いえ、もうこりこり。なんだか何もかも信じられなくなってしまつて…

輝代 そう。

麻里子 私は、女の友人が少ないものですから。後悔していますわ。最後に信じられるのは、女同士なのかもしれないわね。

輝代 女同士でも、いつまでも女学生のようにはいきませんわ。ずっと夢を追っていられたらいいんですけど。

麻里子 ええ。なんでもできるような気でいましたわね。

輝代 そうね。

間

輝代 「…お母さんはなぜ原稿を書く人になったの？書くのが好きだから書くの？お母さんが原稿なんか書かないお母さんになるといいんだけどなあ」

麻里子 え？

輝代 長女が書いた作文ですの。

麻里子 まあ。

輝代 寂しい思いをさせていましたから、しばらくは

麻里子 そうでしたの。お嬢さんが…

輝代 いいわよ。子供は。男女の間に純粹な愛は難しくても、子供はね。特別よ。

麻里子 それに、視野が広がるわ。

輝代 私にも…子供がいたら違ったかもしれないわね。

麻里子 でも、これから…

輝代 もう無理ですわ(笑う)もし子供がいたら…と考えることは幾度もありましたけれど。

麻里子 そう。

輝代 輝代さん、お疲れなのかしら。お顔の色が悪いわ。

麻里子 私も考えることもありましてよ。もし、子供がいなかったら…

輝代 輝代さんが？

麻里子 子供のいない方は、全てを自分の時間に宛てられますもの。敵いませんわ

輝代 房子さん？

麻里子 …

輝代 ね。私の…お使いになる？

と、自分の紅を出す。

輝代 息子が嫌がるんですの
麻里子 子供のために女を棄ててしまおうって…もったいないわね

と、麻里子は輝代の唇に小指で紅を引く。

麻里子 綺麗よ。輝代さん

手鏡を渡す

輝代 久しぶりに引きましたわ。紅なんて

麻里子 女性の権利の中に、美しく装うことも入っているのではなくて？（少し笑って）たしかに房子さんは変わりませんわね。女性が持っている柔らかかなものをすべて捨ててしまったのかしら

輝代 やわらかなもの？

麻里子 守られるべきものっていうことですかしら

輝代 男性に？

麻里子 ええ。女は、男に大切にされてこそ美しくなれるんですわ。…でも、いつまでも大切にされるのは難しいですわね

輝代 女は、少女から女性（によしょう）に、それから母に変化するわ。房子さんは、あえて少女のまま戦っているのではないかしら

麻里子 （笑って）お優しいのね。久しぶりに会ったら、あの人男女みたいに見えませんでしたわ。

輝代 （これも笑って）いい表現ね。確かに、女らしいとはとても言えないもの。あの方と会うと、叱られるような気分になりましたもの。

麻里子 （笑って）そうね。一緒に運動をしても、あの人、神経質だから、少しの計算間違えでもイライラしてしまうのね。全部自分でやるのもね、人に仕事を任せられないからなの。男性と話をするときも、大きな声で物おじしいというか…

麻里子 そんな感じがしますわねえ。

輝代 でも、もし私や房子さんが男だったら。と考えることがあるの。同じ発言をしても、確実に相手の態度は違うはずよ。どうしたって、女は下に見られることが多いから、まずは、普通の女性とは違うんだって認めさせないと話をもとに聞いてもらえない。でもそれは私自身が、女性の地位を貶めてることになるんじゃないかとも考えるわ。

麻里子 …そんな。

輝代 それにね。…こんなに注目されるのは女だからと言われるのも分かってい

るの。

麻里子 ……そうですね。

二人の目が合う

輝代

男と女はまだまだ平等ではない。どうしたら、本当の対等な立場になれるのか…。房子さんは、きっとそのことを思っていて戦っているんだと思うの。

二人はそれぞれの思いに。明かりが変わっていく。

4-2場

ラ・コパン 前場の翌日

房子のおかえりなさいパーティをしている新之助、輝代、省吾、陽介、悟、一子、幸助。

一子

ねえ房ちゃん、このアリスポール嬢って方は、すごい方なの？

房子

アメリカで婦人運動を進められている方よ。婦人参政権の運動中に牢屋にも入れられたことがあるの。今は代表をやってらっしゃるけれど、なにより素晴らしい人格者よ。

一子

やっぱり。房ちゃんの新聞の記事で何回も出てきたものねえ。え？でも、待って。房ちゃんがアリスさんとお話する時は、どうやって話すの？

幸助

何で俺に聞くんだよ。

一子

あらそうね（笑う）

房子

英語よ。

一子

まあああ。すごいよねえ。

輝代

あつという間に追い抜かれてしまったわね。

房子

そんなこと…。あちらに行けば、話さなくては生きていけないんですもの。

陽介

みんな、話せるようになりますわ。

一子

しかし一子さん、房子さんが載っている記事は、全部持っているんじゃないの？

一子

だって、新聞に出るだなんてすごいじゃありませんか。私、何度も読んでしまったわ。

房子

ありがとう。

一子

悪いことじゃなくてすごいことをして載っているんだもの。本当にすごいと思うの。

新之助

女一人でアメリカに行くんだからねえ。ま。見直したよ。（肩をポンポン叩く）

房子

（それをよけつつ）…どうも。

房子

（それをよけつつ）…どうも。

房子

（それをよけつつ）…どうも。

一子 アメリカで暮らすだなんて：すごいわ。憧れるわ。ねえ？
幸助 ん？うん。
一子 聞いてた？
幸助 聞いているよ。
一子 もう！
輝代 一子さんもよかったわね。優しいご主人で。
一子 はい。私、結局、お二人の手伝いは何もできなかったんですもの。でも、もし参加出来ていても、役立たずだったと思うんですけれど。
輝代 いいのよ、気にしないで。
房子 無理にやる物じゃないもの。
一子 そう？
悟 新之助さん。どうです？久しぶりに皆で短歌を詠んでみるのは。
新之助 おお。いいなあ。
省吾 最近、人数が少なくなっていましたからね。
陽介 この間なんか、新之助さんと省吾君と俺だけでさ。男ばかりのうた会は盛り上がらないってことが分かった。

みんな笑う

新之助 同人誌にしても、同じ人間のうたばかりではな。
輝代 私達は、前回出された課題で作ってきたけれど…
新之助 前回の「山荷葉」の会に出席したものは、課題通り、お題は「海」。今日、参加する者は：、房子君がアメリカ帰りだからな。思い切ってアメリカ？
一子 それは新しいな。しかし、うむ。「旅」にしよう。久しぶりに即興もいいだろう。：目があった。省吾君から、発表したまえ。
幸助 座らせてもらえよ。
一子 そう？

幸助、一子を椅子に座らせ、自分も座る。

省吾 じゃ、失礼して。課題のほうでいいですか？
新之助 うむ。
省吾 「おりたちて 清き砂浜 踏みもせず 島にもゆかず こたつに寝ており」
一子 せっかく、海へ行ったのには？
悟 冬の海でしょう？部屋から波の音を聞いて、創作意欲を書きたてられる…

一子 もったいない…ねえ？
幸助 分かんでもないなあ。
一子 えええ？
新之助 独詠歌だな。つくろうと意気込んでいた時にできたうたじゃない。そういう
ほうがよかったりするんだ。
輝代 考えを少し寝かせてからのほうがいいことってありますわね。
新之助 そうそう！さて次は…儂にするか。「高き辺に わが見下ろせる 海辺の町
昼ながらも音絶えており」
悟 浮かびますね…。人っ子一人いない…海鳴りだけが聞こえてくる…
新之助 そうかね？
悟 ええ。観察に目が素通りしていませんし、それでいて、詩的感情も包括して
います。
新之助 うむうむ（満足）。房子君は、出来たか？
房子 ずっと考えていて、お二人のうたを聞いていませんでしたわ。
陽介 アメリカ帰りはどう変わったのか、聞かせてくれたまへよ。
新之助 うむ。聞いてみたいもんだ。
房子 驚きの連続でした。婦人の地位を向上させる思想が、日本より格段に進んで
いますの。私ですら、問題視していなかったことも男女の格差であると一般
的に認識されていることも…
陽介 で。うたは？
房子 うー…「アメリカの 新しき思想 垣間見て 考えることは 日本の未来」
：
陽介 だからそれは、君がアメリカで感じたことを31文字に要約しただけだろ
う。
房子 ありのままを描くんでしよう？
陽介 そうだけれど…
新之助 そうなんだが…アメリカに行ったところで、うたは変わらんなあ。
房子 ダメですか？
新之助 なんとというか、隙間が無いんだよ。31の文字から画を浮かべさせる、音を
聞こえさせる…そういう想像力をかきたてるような
はあ。
房子 そうだよ、な？
陽介 詩的感情の潤いはまるでない。
新之助 からっからだな。からっから。
房子 （二人に）そんなにいい方しなくていいじゃないですか。
陽介 ここまで進化がないのは、むしろ賞賛に値するな。

房子 ちよっと。

新之助 さて。じゃ、君だ。陽介君。

陽介 「御岳海の 身まかりし知らせ 受け取りて よりあやしき迄に 故郷思ほゆ」

房子 ……海が、死んだ？

悟 陽介さんの故郷の海が、…閉鎖された？

一子 あら。お気の毒。

幸助 相撲取りだろう？

新之助 なに？

幸助 御岳海っていう相撲取りですよ。小柄なのに強かったよなあ。

新之助 陽介君。課題は「海」だ。

房子 何かひねってくるのよね。

新之助 そんなひねりはいらん！！

房子 二年経っても陽介さんも進化なし、と。

陽介 お前なあ…

一子 お相撲さんのことだったのねえ…

陽介 そうそう。御岳海がいない10月場所がどうなるかと思っただけ…

新之助 次。

幸助 いえ。俺は…

陽介 なんだ？考えていなかったのか？

幸助 はい。

陽介 正直だな。

みな、笑う

幸助 短歌だなんて俺はさっぱり…な。

一子 私も実は…

幸助 俺は一子に連れられて、こんなところに来ただけで…

新之助 こんなところとはなんだ？

一子 ごめんなさい。この人いっつも、言い方がへたくそなんです。

幸助 いや、こんな派手な町の中にあるカフェだなんて、どうしていいんだか…

陽介 俺も初めはそうだったよ。

幸助 そうですか。

新之助 慣ればなんてことないさ。

幸助 一子も、こういう派手な場所で皆さんに会うのが楽しいだけで、短歌なんて

何一つわかってないんですから。

一子 ちよっと。

幸助 だってそうだろう？

一子 うーん。

新之助 二人仲良く考えていないのか？（笑って）そういう新鮮さを持った君たちが、改めて会に入ってくれるのはいいことだと思うぞ。な、一子ちゃん。

一子 ええ。でも…ね。

幸助 子供ができたようなので、これからあんまり出歩いたりは…

房子 よかった！よかったわね！！

一子 ええ。ずっとほしかったから嬉しくて…。

新之助 なんだ！早く言いたまえよ。

一子 この人、心配性なので…

新之助 女のほうがケロッとしてるんだよなあ。

一子 だって、房ちゃんやみなさんに久しぶりに会えるんですもの。

幸助さんは、どこで一子さんを見染めたんです？

一子は、実家の店の店番をしていましたから。それで…

かいがいしく働く姿に惚れたわけか。

幸助 いや…は…。自分は、一子の店の近くで働いていました。

陽介 毎日毎日、姿を探すうちに…か。

幸助 はあ。まあ、この人しかないと思ったんです。

一子 そんなこと言ってくれたことが無いじゃないの！

幸助 言わないだろう、わざわざ。

一子 言ってよ！嬉しいんだから！

悟 （笑って）じゃ、次は僕ですね。「この涙 つひにわが身を 沈むべき

海とならむを 思ひぬはじめ」

新之助 いうただ。しかし、女性のようなうただな

悟 さすがですね。このうたは、僕のものではありません。

女給が外に待たせてあった麻里子を招き入れてくる。

房子 麻里子さん！

悟 麻里子さんを…「山荷葉」に戻してはいただけないでしょうか？

新之助 しかし…

悟 7年ですよ。もう7年も経って…、彼女は河野先生と別れ、また一人になったんです。

麻里子 あの時は…本当に…ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。私…愚

かでしたわ。

輝代 麻里子さんには、短歌しか残されていませんもの。麻里子さんも、傷ついて
いるんですわ。

麻里子 輝代さん…（深くお辞儀）

女給 ご用意できております。（悟に）

新之助 え？

女給 あちらで。

新之助 ん？うむ。

悟 これ、どうですか？（ウイスキーをちらつかせる）

新之助 おお！レアオールドか！！

悟 さ、麻里子さん。

麻里子 ええ。

三人、奥へ。

省吾 あの二人って言うのは…

房子 悟さんと麻里子さん？

省吾 怪しいよなあ。

房子 え？

省吾 悟さんに、河野先生との家を出る相談をしていたらしいんだよ

房子 まあ。

輝代 「あかねさす 紫野行き 標野行き 野守は見ずや 君が袖振る」

省吾 ああ

房子 え？

省吾 二人の秘密の仲を知られては困るけれど、愛情を示してくれるのは嬉しい。

輝代 私もあなたのことが好きなのだから。っていうただよ。

輝代 麻里子さんのうたといっても信じてしまう人がいるかもしれないわね。

一子 秘密の恋…素敵…

幸助 ええ？

輝代 あの人は、お一人ではいられない人なのよ。

房子 私、なんだか…嫌ですわ。

輝代 まあ、とにかくパートナーが見つかるのは、いいことだと思っわ。

省吾 よきパートナーか。輝代ちゃんをよくその話をするよね。

輝代 私は、あなた一人で十分だけれど。

幸助 そりやお熱いことだ。麻里子さんだけじゃない。人間、一人じゃ寂しいです

陽介 からね。なんなら、陽介さんと房子さんはどうなんですか？

陽介 ☆ええ？こいつ？

房子　こいつって何？
一子　☆ちよつと！

一子は幸助をぶって

一子　もう、調子に乗るとすぐこういうこと言うのよ。ごめんなさい、ほんと。

房子は赤面し、陽介は三人が去っていった方向に意識が取られている。

一子　そうそう。この間ね、集会に行ってきたのよ。「総選挙に婦人は何をすべきか」っていうの。

房子　へええ！一子ちゃんが？

一子　ええ。でも、一人じゃ不安だから幸助さんと

幸助　一子のほかに、何人もの女性が聞きに来ていましたよ

一子　私達女には、選挙権はないけれど、もし一票入れられるとしたら、どういう人がいいのかしらって生まれて初めて考えたわ。

房子　大事なことよ。そういうふうに分から具体的に考えるってすごく大事なの。

一子　そう？（嬉しそう）

房子　それで、どういう人にいれようと思ったの？

一子　ええと…（ノートを開き）「賄賂とか、お妾さんとか悪いことをしていなくて。議会ですぐに野次ったりしないので、自分の出世よりも国民のことを考える人。」

幸助　なんだ。講演会で聞いてきた通りじゃないか。

一子　だって、そうだなあ。って思ったんだもの。

幸助　すごい熱気でしたよ。女性が講演をするっていうんでどんなものかと思て来たやじ馬もたくさんいたんでしたが、皆真剣に聞いていました。

一子　房ちゃんに頼んでここに来ていなかったら、一生集会なんて聞きに行くこととはなかったわ。それに、二人の運動のおかげで、私も集会に行けるようになったんだもの。

房子　よかった…。なんだか嬉しいわ。

輝代　房子さんと私、集会所から警官につまみ出されたことがあったわね。

房子　ああ。ありましたね。（笑）

一子　警官につまみだされるだなんて…怖かったですよ？

房子　でも、女だからって理由なのよ。ばかばかしいじゃない。

一子　強いよねえ。房ちゃんは。私、集会に行くとね、なんだか私も輝代さんや房

省吾　ちゃんのような女になった気がして、気分がよかったわ
でも、一子さんがこの二人のようになったら困るでしょう？

幸助　（笑って）困りますねえ。いや、でもね。集会に二人で行くようになって、
いろいろ話題が広がったようにも思うんですよ

一子　そうなの。

省吾　一子さんはどうして幸助さんがいいと思ったの？

一子　いやだ。いいじゃないですか。

省吾さん、なんでそんなに知りたがるんです？

省吾　芸術には恋愛がつきものだからね。いろいろな「パターン」を学習しておか
ないと。

房子　そういうものですか？

省吾　で？

一子　はじめは、いいとも嫌とも思わなかったんです。でも、一緒にいたら、一緒
にすることが普通になってきて。一緒にいないと不安になってきて

幸助　今じゃ、風呂だって一人で入れないものな。

一子　やだ！ちよっと!!

省吾　いやいや、お熱いことで。

いつの間にか、麻里子が見ていたようだ。

陽介　「…思ふこと　空しき夢の　なか空に　たゆともたゆな　つらき玉のを」

陽介は、（陽介にしか見えていない）麻里子に向かってつぶやく。

一子　あ！私、このうた、好きだわ

幸助　どういう意味です？

陽介　ああ。忍ぶことがつらくても、想うことが空しくても、どうかあなたは消え
てしまわないで。ってところかな

房子　でも、あんまりつらいのは嫌よねえ…

輝代　頭ではなくて、そう感じてしまうものよ、恋愛って。それは女性として生き
る大きな喜びの一つだわ

房子　絶対に必要なものですか？利点と共に不都合な面もあるんじゃないです
か？

輝代　パートナーがいること、子供を産むこと…。体験を伴う思考は説得力がある
し、視野が広がるわ。

房子　…

輝代が少し上から目線。

幸助 一子はどうなんだい？僕が苦勞をかけたら
一子 嫌よ！苦勞なんかかけないようにしてよ！

と、二人は仲いい喧嘩。陽介と麻里子の視線が絡み合っているのに房子が気が付き、そのことに輝代も気が付く。陽介と麻里子、輝代と房子の視線が交錯しつつ明かりがかわっていく。

5-1場 汽車

「号外！満州事変勃発せり！号外！号外！」と新聞売りが走っていく。みなそれぞれ
の席で新聞を読んでいる。

車掌 (新聞を読む)「奉天軍の襲撃から日支両軍遂に交戦。わが軍北大宮の一部
を占領。さらに奉天城を砲撃」

輝代と省吾、房子と陽介と悟はそれぞれ別空間。清子はまた外側から見ている。

輝代 本当に始まるとは思わなかったわね、戦争だなんて。

省吾 いや、戦争じゃないよ。満州事変だ。

輝代 それは軍部がつけた呼び方でしよう？戦争というと反発を食うから呼び方
を変えているだけじゃなくて？

省吾 それは偏った見方じゃないか？まだ今の状況だと戦争じゃないよ。シナの
公司も赴任してきただろう？

輝代 それにしても大きくなりすぎよ。政府には反対の声が届いていないのかし
ら。

省吾 今回なんかは内閣がだらしがらないんだな。

輝代 第一、軍部が勝手にどんどんやり過ぎだわ。軍部は、外務省の決定を腰抜け
とか言い出すのではなくて？

省吾 君は、軍部が軍部がって言うけど、その中心は誰なんだい？

輝代 留学帰りの若い人達じゃないかしら。イタリアのファッショにかぶれて、日
本を救うにはこれしかないって

省吾 日本では、ファッショと共産主義とどちらが受け入れやすいんだろう

輝代 どちらも盛んになるでしょうけど、一般大衆はファッショなんじゃないか
しら？愛国の名にはみんな動かされるもの。

省吾　ファッショだと戦争に向かうけど、君たちの婦人参政権では防げないの？

輝代　戦争に対する考えは、男と女ではだいぶ違うと思うの。戦争は、自分の子供を殺すことになるかもしれない…。そう思ったら、変わると思うよ。

省吾　僕の周りなんかじゃ、賛成している奴もいるよ。

輝代　ええ？

省吾　反対できなくなる時代が来るかもしれないよ…。

陽介　満州事変…か…

陽介　全紙に目を通したけれど、新聞の論説は概ね賛成ね。

陽介　全紙に。それはそれは。

悟　アメリカでも新聞はそれぞれ論調が違うのよ。その違いを把握しておくことが、これからは大切だと思うの。

陽介　社の内部じゃ、軍部の態度には疑いを持つてるのも多いよ。でも、反対の意見を書けば、在郷軍人会あたりからやっつけられるからなあ。

悟　在郷軍人会は、出兵に非常に賛成だとは聞いていますよ。

陽介　はじめるのは簡単だが、終わらせるのが大変だよな。自分たちの名誉を保とうとして、引き際が分からなくなるのが落ちだ。

房子　それに戦争を始める人間は、直接戦地にはいかないでしょう？そういう無責任さがあると思わない？

悟　はじめるのは軍人。後始末は、軍部じゃなく外務省がやるわけですからね。

房子　婦人が政治に参加したら、軍部の暴走を食い止められる。そう思わない？

陽介　軍部が暴走するまでに、実現はできるのかな。

房子　このままでは「あの時どうして止められなかったのか」ってずっと後悔し続けることになる気がするのよ。

省吾　本当は、房子さんと一緒にやりたいんだろ？

輝代　子供達がいるじゃない。貴方もやっと退院したところなのに。

省吾　僕にもっと稼ぎがあつて、身体も丈夫であつたなら…

輝代　そんなこと言っていないでしょう？

省吾　私ばかりが畑を耕して、水汲みにも行って…

輝代　やめて。

省吾　…

輝代　省ちゃん、私にないものをたくさん持っているわ。それに触れられることが幸せなの。

省吾　でも子供の小遣いまでを使うのは辞めてくれ

輝代　それは…。そうね。それだけはやめて。足りなかったら、私に言ってくれたらいいのに。

省吾　美しいものは、僕の芸術の源なんだよ。魂を、息を吹き込まれるんだ。

生活に追われていたら、僕の筆は…

輝代 そうね。貴方は、芸術家だもの。省ちゃんは、純粹なの。だからああいう絵が描けるんだわ。

省吾 君はそうやって僕を支えてくれている。僕は輝代ちゃんのそばでなければ、絵なんか描けないよ。けれど輝代ちゃんは、そばにいるのが僕でなかったら、こんなに苦勞することもなかったかもしれないし、もっと社会に出ていつているかもしれない。

輝代 …人生にIFはつきものだわ。でも、選んできたんだもの。私。それ以上に時代が変わってしまったっているけれど。

省吾 輝代ちゃんは選んできた。一度は、死をも選ぼうとしていた人だものね。昔のことよ。

輝代 歩けばだれもが振り返るような美少女だった輝代ちゃんは、一人の男を狂わせ、心中事件を起こした。死ぬことを選んだけれど、死ぬなかったんだらう？

輝代 またその話…。昔のことは昔のこと。省ちゃんに会う前のことだもの。会う前のことは、もうどうにもできないじゃないの。

省吾 いや。どうしてだろうと思つて聞いているんだ。一人で死ぬのではなく、心中を選んだ。それはどうして？

輝代 あのころは…私は、私一人を抱えることもできなかったの。私がどれほどのものなのか試したかっただけ

省吾 男が命を投げ出すほどの女なのか知りたかった
そう

(笑つて) すごい人だよ、輝代ちゃんは。

輝代 二人の男を同時に愛する可能性を言ったこともあったわ。でも、違ったのね。省ちゃんと会つてから、それは違ったんだと気が付いたの。

省吾 僕は君を封じ込めてはいやしない？
なに？どうしたの？

もつと自由に…発言したり行動したりしたいんじゃないか？君らしく。

輝代 今は、貴方と子供たちのために生きてるわ。そのことが私を形作っているの
輝代ちゃんの…身体の中の炎みたいなのを、僕が蓋をしてるんじゃないかな。と思うことがある。

陽介 (新聞に目を通していて) 野球や相撲を見る感覚で、一般大衆は動いてるんだらうと思えないね。本当に、政治というものが浸透していないよ。
選挙ですか？

悟 ああ。

陽介 悟
今回はあまり騒がれませんでしたね

房子 満蒙や上海の問題に気を取られてるのよ。新聞だってそっちばかり勝ちすぎだな、政民党。

陽介 必要なのは、批判力の養成だわ。

房子 批判力。房子さんらしい。

房子 だってそうでしょう？政府が何をしてきたか、何を政策としているかを自由に批判して、これを投票の上に表示しないと

悟 政民党なら、景気が出ると考えたんじゃないやありませんか？

房子 景気だけでいいの？それだって、なんとなくそう思うだけでしょ？一人一人が実感を伴う景気の回復を示せる政党なんてあるのかしら。

悟 なんとなくで決める人間が大半ですよ。それに、…今をそれほど悪いとは思っていないんじゃないですか？

房子 ええ？だってこのままでは大変なことになってしまおうでしょう？

陽介 犬養内閣が、今後、どう動くかだな。房子君たち、会いに行っただろう？

房子 ええ。内外の政局が困難なれば困難なるほど、打開の協力には婦人参政権が必要だって伝えてきたわ。

悟 政民党人気は、今回の満州問題も…

陽介 そりゃあそうさ。日本中、活動写真でも見るように喜んでるでしょう？ま、政局は安定したと言っただろ？

悟 犬養首相は、上海事変についてはどうなんです？

陽介 反対らしいよ。でも、どうにもならないでひきずられているらしい

房子 軍部に？

陽介 そう。国民にしても、積極的にこの党が信じられるという空気が無いし、今後はますますなくなっていくと思うんだ。そうなるとき、よりわかりやすいものにひきずられてしまう。それが怖いな。

悟 政民党も…前の民友党だって軍部に引きずられて、おめおめと内閣を投げ出したわけですからねえ。

房子 そんなこと言ったら、議会否認じゃないの

陽介 ファツシヨか…。民間でもそういうのが出てきたね。君の熱心な婦選に対して、『しかるに最近この個人主義に基づく女子参政権を説くものがあるが如きは言語道断である。』

房子 個人主義とただのわがままを混同している人が多いのが問題よ。個人主義はあくまで人権に基づくものなのに。

輝代 自分で選んだ自覚もないまま、レールに乗っているのが一番怖いわね…

陽介 あ！電話をしないと。次の駅で借りられますかね。

輝代 今乗っている汽車は途中で降りることも、引き返すこともできない。そんな気がするの。

悟 終点まで止まりませんよ。

省吾 それで君は、どの汽車にも乗らず、ただ見ているの？

輝代 他にどんな方法があるのかしら…

悟 それで、房子さんは何をするんです？

房子 …正直、追いつけるのか不安があるの。時勢の展開があまりにも急すぎて。時勢の流れか…。

陽介 輝代さん、運動から離れてしばらく経ちますねえ。

悟 省吾さんとお子さんと農業をしながら暮らしているらしい。いや、あんなに尽くす女性だとは…分からないものだね（笑う）

房子 輝代さんは…知的な興味をなくしてしまったように見えない？なんていうか、努力をしなくなったように見えるの。お会いしても、子供の話ばかりでなんとというか…

悟 日本の国益のためですよ。素晴らしいことじゃないですか。

房子 それはそうですけれど。なんだか悔しいんです。女学校では、輝代さんは皆ができないことを一番にやっつけた方ですの。風向きを変えられるのはあの人のよ。今だって、あの方じゃないとできないことがあるのに。

陽介 そう言いきっちゃうのも危険だぜ。子育てだって、その子供にとっちゃ、母親は変えがきかないんだから。

悟 それに男が女を変える。っていうのはよくありますからね

房子 それは男の方にとっては喜ばしいこと？

悟 そりゃあ、嬉しいですよ。

房子 自分の色に染めるってこと？だいたい白無垢にしたって、花嫁は真っ白な状態で嫁ぎ、男性の家の色に染まります。っていう意味なんでしょう？それを聞いたとたんに、うんざりしてしまっただけだ。

陽介 色が無ければいいってわけではないよ。個性はそれは楽しいものだからね。でも一緒になる分には…ってことなんじゃないか？

房子 男性の器が小さいとしか思えないけど。

悟 房子さんを相手にする男性は、よほどの器の持ち主ですね。

房子 どういう意味？

悟 いやいや。

房子 どうして結婚したとたん、女は男の時間に合わせて生きなければならないのかしら。

悟 そりゃ、男は外で働くんですから。

房子 反対のあり方があったっていいと思うんです。外で働くことに適した方が働き、家を守ることに適した方が家を守って…

悟 男がおさんどんをするってことですか？それはなあ…

陽介 キュリー夫妻の例もあるな。共に研究をしていくパートナーとして結婚している。

悟 国が違うでしょう。日本女性はやはり、やまとなでしことして…な。

麻里子 ええ。

房子 けれど才能ある女性が、その才能を活かし続ける土壤は必要でしょうか？—

悟 等国と騒いでいるのに、その点古すぎる気がしますわ。

悟 日本の美德ですよ。そこを否定するのは違うんじゃないやありませんか？

少し嫌な空気になる

陽介 河野先生は、今はどうなさっているか知っています？

麻里子 いえ。連絡を一切取っておりませんもの。

悟 僕はね。一度、研究室で会いました。

陽介 大学の？

悟 ええ。でも、内密にです。表立ってはあの人は、物理界からも引退したままということになっています。けれど、あの人の知識が必要な局面が出てきましてね。それをいい機会に復職させられればと骨を折ったんですが…

陽介 何の研究だい？

悟 書かないでくださいよ。

陽介 うちの雑誌に？書かないよ。裏を取れないものは書かない。

悟 全部は言えませんが。陸軍が絡んでいます。

陽介 なるほど。

房子 軍事研究ってこと？

悟 まあ、そうです。しかしあの人は、弱腰というか…男らしくないというか…。どうにも協力すると言わないんですよ。

麻里子 すぐに決められないのよ、あの人の。

房子 ねえ。本当にアメリカと戦争することになるのかしら。

陽介 どうかな…

房子 どう考えても勝てるとは思えないけれど、あの大国に。

悟 でも、資源の豊かさからしても

房子 勝つ見込みがあれば、戦争してもいいのか？

陽介 そうは言っていないわよ。

房子 資源を越える技術力を日本は持っています。しかし、河野先生は…日本のためですよ。国のためになる学問の協力の尽力を渋るといふのは僕には考えられない。軍からも潤沢な研究費が約束されているんです。世界一を狙える

かもしれないのに…。

麻里子 あの人、昔、悟さんの論文を握りつぶしたことがあったんですって。

陽介 どういうことですか？

悟 まだ僕が駆け出しの頃です。世界的な学術誌に論文を送るには、教授のハンコが必要なんですよ。僕の論文を、河野先生が「まだ読んでいない。読む時間が無い」と先生の机の中に入ったまま、何か月も過ぎてしまいうち、アメリカの研究チームに先を越されたことがありますね。

房子 まあ。そんなことが。

悟 今回も、僕がリーダーとなる研究ですからね。もしかしたら、面白くない思いもあるのかもしれないね。

陽介 嫉妬…か。果たして…。

麻里子 そういう小さいところがあるんですの。

房子 ねえ。麻里子さん。どうして悟さんと一緒になることにしたの？

麻里子 (笑って)女ですもの。力のある男性のそばにいないければ生きていけないでしょう？

悟はまんざらでもない。房子と陽介はそれぞれの思いに。

省吾 「かざしたる 牡丹火となり海燃えぬ 思ひみだるる人の子の夢」

輝代 え？

省吾 与謝野女史の句。嫌いなんだよね。

輝代 嫌いってわけじゃ…

省吾 僕はこの句で輝代ちゃんを思い出した。僕はいつか、輝代ちゃんに燃やし尽くされてしまうのかなってね

輝代 今は…違うわ。燃やし尽くしたら終わってしまう。あの子たちが生まれて、未来が他人事でなくなっただの。

銃声

車掌 犬養首相が暗殺されたそうですよ

軍靴の音が聞こえる。

車掌 (新聞を読む)「昭和7年5月15日午後5時20分ごろ。桜田門外警視庁

正面左側の入り口で、突然田タクを止め海軍将校服を着た怪漢一人と陸軍服を着た兵卒二人が、警視庁正門に向かってピストルを乱射。闘争の際、巻

いていったビラの内容は『日本国民に檄す日本国民よ』と題し、『祖国日本を直視せよ。真の日本を建設せよ!』とあった」

明かりが変わっていき、原稿を書く房子が残る

房子

「斎藤新内閣に望む。犬養首相の死によって、議会否認の運動から表面的になった政情の不安は憲政を逆転せしめている。私共の希望の第一は、婦人参政権を含む選挙法の大改正である。婦人が直接行動を肯定して、独裁専制を主張するファシズムに反対するのは、その女性の本質から見て当然のことである。」

6-1場

汽車

明かりが点くと、房子と清子の前にとらが座っている。車掌がやってくる。

車掌

決めました?

とら

ここから5年は…嫌ね。でも、それからだったって…難しいさね

車掌

ええ。どうしますかね…

とら

房子。そんなの(眼鏡)かけてただか?

房子

え?

とら

眼鏡。

房子

これを使うと、よく見えるのよ

とら

貸してみ

とら、かけてみるとウワンとなつて、すぐに返す。清子も試してみるがすぐに返す。

房子

母ちゃんには合わないのよ。なんだかいろんなものが…見えづらいの

車掌

確かに、見通しはよくないと運転手も言っていましたよ。

とら

房子。いい人はいないの?

房子

いないわ。そっちの見通しはずっと悪いままだわ。

清子

うまい!(笑う)

とら

あんた、知らないだか?

清子

知らないんです。聞いても話してくれないし。うちのお母さんだと、ベラベラ喋るんだけど。

房子

だから、ないだつて

とら

そうしたら、あんたあ面倒見てくれる人いなくなっちゃうじゃないかね。

房子

母ちゃんは、もう死んじまうもんで

房子　　：母ちゃん
とら　　心配なんざら
房子　　車掌さん。いつですか？今。
車掌　　午後8時…
房子　　いえ。昭和、何年ですか？
車掌　　昭和16年10月17日
とら　　だら？母ちゃんは、明日、死んでもんで

車掌が、切符を確かめる。車掌は、房子の切符の行き先が消えていると告げる。この汽車はどこに向かい、自分はどこに向かっているんだろう…と思う房子。汽車はトンネルの中に。

車掌　　（新聞を読む）「大命東条英機陸曹に降下。新内閣けふ親任式。三国同盟を基調、共栄圏の確立へ。新内閣の三大使命。」

明かりが変わり、別席に輝代、原稿を読む。また別席に房子原稿を読む。途中から、ラ・コパンに変わっていく。

輝代　　『まず気が付いたのは、いつの間にか議会というものにほとんど何の期待も持たなくなっただ自分についてである』…どの国も敵じゃない。敵は、戦争だけ…。これは共有できる…。『新体制を裏付ける日本民族の新しい大きな夢を理想を使命を全国民の心にできるだけ正確に明瞭に、この際示してください。』…けれど「理想」の枠から少しでもはずれると、協力者は引き潮のようにひいていく…。「理想の母」…。何も言わないことも選べる。…息子に危険な目に遭ってほしくない。息子だけは戦地に行かせたくない。でも、赤紙が来たら…。

房子　　『アメリカ女性へ。貴女方は単純すぎる。日本女性を思ったことを言えないと評価を下したが、その思い上がった視点を気の毒に思う。自由主義的正義感に立脚してこの激しい時局下にとどのような役割を果たすかは疑問ですが、今こそ矛盾する自己をよく反省したほうが良い』

6-2場　　1941年10月18日　ラ・コパン
前と違うのは、店の周りを特高と思われる男が見回っている。
店の前にある植木に水をやる新之助。一人の男が店に入ろうとすると

新之助　　や、すみませんね。今日はうちは休み。

男

(中を覗く)

新之助

あれはね、店の従業員みたいなもんですよ。あんた、また明日来なさい。家のコーヒーは美味いからね。サービスしてやろう。

男、いったん去る。新之助は中へ。

悟

新之助さん、ありがとうございます。お店を貸していただいて。

陽介

どこにいこうと、どこも…なあ。

新之助

特高だろう？あれ。陽介君か？

陽介

僕でしょうねえ。ついでに房子君といったところでしょう。

新之助

陽介君は慣れたもんだろうが、房子君もか。

房子

ええ。最近は。

新之助

陽介君と房子君。これは分かる。しかし、そこに悟君。水と油みたいなあん

たたちが集まって、一体何の話だ？

悟

(笑って) 言い得て妙ですね。しかし、大っぴらにできる話ではないからこ

こを貸していただいたわけで…

新之助

そりやそうだろう。儂はな、口は堅いぞ。

電話が鳴り、女給が大きなお腹で出てくる

女給

お電話です。

房子

私？

女給

ええ。

房子、電話のほうへ

女給

いらつしやいませ。お構いもしませんで…。

陽介

いやいや、構わんでください。

新之助

いいのか？そんな薄着で

女給

大げさねえ。大丈夫よ。

新之助

しかし…

女給

ね、ちよつと。

新之助

ん？

女給

だから、ちよつと。

新之助

うん、うん。(行こうとするが陽介に) あとでかいつまんで教えてくれ。

新之助、奥へ

陽介　　この女給だった子だよな、あの子。

悟　　おや、知りませんでしたか？

陽介　　聞いてはいたが、あの腹を見ると、改めてな。

悟　　玄人に限るってあれだけ言ってましたが

陽介　　学ばないな。人間は。しかし、新之助さんもここにいらしてもよかつたんじ

悟　　やないか？

陽介　　隣組もできましたからね。用心するに越したことはないでしょう。

奥から、新之助と女給の「蹴った！蹴ったぞ！」という笑い声

悟　　ま、しかし僕がいますからね。お二人に不利になるようなことは一切ありませんよ。

陽介　　いつの間にか悟君は国家の要人だからな。今はまた、何の研究をしてるんだ？

悟　　日本のための研究ですよ。欧米の鼻を明かしてやりたいですからね。僕はね、才能ある方が埋もれたままいることが、齒がゆくてならないんですよ。

陽介　　房子君か？

悟　　ええ。房子さんの支持者はしっかりといますからね。もはや、信奉者といつてもいいんじゃないやしませんか？しかし、世間一般から見たら変わった人たちが変わった人を応援していると思われていない。

陽介　　変わった人…ね。俺らは、自分が正しいと思うことを言うだけだがなあ。

房子、戻ってくる。

陽介　　何だったんだ？

房子　　…ええ。

再び、特高の姿が外に

房子　　また、いるわね。

陽介　　国は、厄介なものを追い払うためには金を惜しまないからなあ。

房子　　悟さん。私、やっぱりお断りします。私の意思は変わりませんわ。

悟　　そういうだろうと思って、今日は陽介さんもお呼びしたんです。

陽介　　俺だって房子君が大政翼賛会に入るっていうのは反対だ。なんだかんだ言

って結局は、軍の方針を支える組織だろう？

悟 新体制ですよ。あらゆるものが新時代に即応しなければならぬ。そこは、記者である陽介さんは敏感に気づかれていますでしょう？

陽介 世論は変わってきている。評価の軸もずれてきている。それは確かだな。

悟 一億一心です。日本が心一つにして、天皇陛下のもと進むべく道を歩むため作られたんです。房子さんが16年続けてこられた婦選獲得同盟も解散。新しい構想での再出発が必要でしょう？房子さんが参加すれば、貴方の色にしていくことだってできるんじゃないですか？

房子 戦争に反対の立場の私が、参加する団体ではないでしょう？

悟 様々な意見があつてしかるべき。これは、房子さんも陽介さんもおっしゃることですね。しかし最近では、房子さんの筆も以前までの勢いが無いとか…、何かを気になさっているような…

房子

陽介 またうちに書けばいい。房子君の論文を待っている読者はいるからね。

悟 それもいい。しかし、陽介さんの雑誌の読者は何人です？

陽介

悟 僕は応援していますよ。しかしやはり、変わった人たちが買う少数派の雑誌です。それにですよ。もともと同じ考えの人に、論文を読んでもらったところで何になります？輝代さんでさえ、最近じゃ立ち位置が変わってきましたよ。

陽介

いや、あの人は「母権」を主張し続けているだけだ。ただ、時代…なんだろうな。いつの間にか「産めよ増やせよ」の政策に取り込まれている。

房子

輝代さんが本当に目指したところは違ったはずよ。輝代さんが生み出す言葉が今こそ必要なのに…。最近じゃ、玄米食の提唱に熱心でしょう？「魚や肉などいらぬのです。玄米で栄養は足りるのです」なんて書いていたけれど、そもそも肉や魚なんて買えない家庭がたくさんあることをあの人は分かっていたいのよ。

陽介

まあ、お嬢様育ちだからな。

房子

しかしね、今や輝代さんの玄米食の提唱のほうに、日本中に浸透しています。時流に乗る。これだって、必要なことですよ。

房子

時流に抗いたいと思っている場合は？

悟

(笑う) 流石ですね。だからこそ入っていただきたいんです。房子さんの立場の方からの意見って言うのがまた説得力を増しますからね。あなたは、もっと大きなことができる方ですよ。

房子

…

悟

隅っこでこそそやっていたって、結局何も流れは変えられない。国の中心で発言する場があれば、もしかしたら時代の流れだって変えることができるかもしれませんよ

陽介

時代の流れか。東条内閣が組閣されたんだ。流れは一気に加速するだろうなええ。シナだけを相手にしていたのでは東亜に平和はやってきませんよ。東亜の平和を邪魔しようとするアメリカを相手に戦うことになるんじゃないですか？

陽介

そうなりや、あなたたちは大活躍だ

悟

時代の流れに即した研究ですよ。求められたものを作る。当たり前のことです。研究棟で自己満足のために顕微鏡をのぞいているだけが学問じゃありませんよ。じゃ…いい返事を期待していますよ。

といい悟は去っていく。

陽介

しかし、統合、統合ばかりだな。

房子

…

陽介

どうした？

房子

さっきの電話…

陽介

ああ

房子

母が亡くなったの。

陽介

…そうか。

房子

時代が…、変わるときなのかしら。

問

房子

雑誌もだいぶ減らされたわね。

陽介

多様性こそ、今の政府が最も嫌うところだからな。うちの雑誌を残すのに…

房子

まあ、苦労したよ。

陽介

三つあった婦人団体も一つに統合されたのよ。

房子

ああ、そうだったな。

陽介

女性同士が分裂している場合じゃないと思っていたからよかったわ

房子

いいのか？君は反対なのかと思っていたが。

陽介

全部に反対しているわけじゃないわ。

房子

君は東条と思想は違うだろう？

陽介

東条と言う人にはどだい思想はないのだから、彼と思想の対立があるはず

房子

ないわ

陽介 (笑う)

房子 笑い事じゃないわ。一般のご婦人たちが、三つの団体から次々に動員される

のよ。見ていておかわいそうだったんだもの

陽介 おかわいそう、で運動を起こす輝代さんを批判していたのはどこの誰だ
い？

房子 机の上の理想だけじゃダメなのよ。時勢を利用することも、時に必要かもし
れない。現実には添って変化していかないと…

陽介は房子の眼鏡をはずす。

房子 ちよつと。見えないじゃないの

陽介 これをかけて、本当に見えてると思ってるのか？

房子 どういうこと？

陽介 君は、これかける前は、僕には見えない展望を、未来を見ていた。僕はそ
れをきみに書いてほしいと思ったんだ。

房子 …

陽介 これをかけた途端、君は言い訳ばかりを並べている。君が本当に見たいもの
は、これにかけていては見えないんじゃないか？

房子 …でも、書きたいことを書いたら伏字にされるでしょう？この間の陽介さ
んの論説なんて、半分以上伏字で何が書いてあるんだかさっぱり分からな
かったわ

問

房子 こういう世の中になってしまったんだから、陽介さんも今まで通りでは…

陽介 なんだ？

房子 だから、率直に言いすぎるのは…

陽介 こういう世の中だからこそ、臆することなく発言するべきだろう？

房子 でも伝える場を失ってしまつては…

陽介 だからって本心ではない意見を書くのか？

房子 嘘は言っていないわよ。陽介さんは言葉を選ばないし喧嘩腰みたいところ
があるから。

陽介 ええ？

房子 だから、心配してるのよ

陽介 …そりゃ、ありがとう。

房子 …

陽介 ま、昔も一度豚箱には入ってるんだ。
房子 一度も二度も同じってこと？
陽介 まあな。君もだぞ。
房子 何が？
陽介 一度、妥協したら、なしくずしになる。
房子 …大丈夫よ。
陽介 (房子をじっと見る)

間

房子 …悟さん、活き活きなさってるわね。麻里子さんと結婚もなさって、自信をおもちになっっているように見えるわ
陽介 ああ。変わったな。
房子 陽介さん。麻里子さんのこと、好きだったのじゃないの？
陽介 (笑う) 君にまで分かれていたということは、僕もだいたい自分を失っていたんだな。…色に狂うという言葉は、言い得て妙だね。僕は、色の着いた眼鏡をかけられていたのかもしれない。恋愛という病は、恋と言う色の眼鏡をかけたときから始まる。どんなに大勢人がいたところで、その人だけにスポットライトが当たっているように見える。いつもの景色もお花畑だ。幸せな病気じゃないの
房子 そう。考えが止まって、高揚してしまう。いい酒を飲んだ時のように考えるために…きちんと見ようとしてかけるものではないの？眼鏡って。
陽介 本来はそうだ。しかし色付きだと厄介だ。かけた途端、競馬馬のように視野が狭められる。一つのゴールに向かって
房子 …日本が。
陽介 ああ。
房子 日本が今。何色かわからないけれど色付きの眼鏡をかけようとしている…
陽介 「日本人は優秀な民族だ」という眼鏡をかければ、いい気持ちに酔っ払える。あるいは、時代という大河に流されていることを忘れるためかもしれないな。

二人はテーブルに置かれた酒が入ったグラスを見つめる。間。一気にグラスを空にする房子。寸前に飲むことを辞めた陽介は、房子を見つめる。明かりが変わっていく。

車掌

(新聞を読む)「大本営海軍報道部発表。8日午後8時45分。本日8日早朝帝国海軍艦艇部隊により決行せられたるハワイ空襲において現在までに

汽車。悟が房子を大日本言論報告会の理事に勧誘している。

判明せる戦果、左の如し。戦艦二隻撃沈、戦艦4隻大破、大型巡洋艦約4隻大破以上。外に敵飛行機多数を撃墜撃破なり。わが飛行機の損害は軽微也」

悟 政治の世界に女性が入るべきだ。これは変わらないでしょう？

房子 ええ。もちろん。

悟 ですから、房子さんがその旗手になるんです。

房子 でも私は…

悟 戦争に反対してきた。でも、もう戦争は起きていますよね。

房子 だからせめて、広がること、長引くことに反対してきましたんです。

悟 ええ。しかし日本は太平洋戦争に舵を切った。始まったものは始まったものと受け入れて、これからどうするかを考えなければいけないんじゃないですか？

悟は去る。房子は残される。別空間に様々な人が浮かぶ。拍手の中、手を振りながら歩いていく悟。三歩下がってつきそう麻里子。

万歳の声

幸助が出征する。必死に笑顔で万歳をする一子。その一子を房子は見ている。

輝代と省吾が別空間に浮かぶ。省吾は病氣らしく、椅子に腰かけているが毛布がかかっている。輝代は、省吾にリングをむいてあげている。

省吾 出征だってね、幸助さん。

輝代 ええ。

省吾 うちにはいつ来るんだろうね。赤紙。

輝代 ……

省吾 ……この戦争で、日本は何を得るのかな…

陽介が原稿を書いている

陽介 「ただいたずらに聖戦の美名に隠れて、国民的犠牲を閉却し、いわく国際正義、いわく道義外交、いわく共存共栄、いわく世界平和、かくの如き雲をつかむような文字を並べている。シナ事変が始まってから10万の英霊を出しても解決しない。どのように戦争解決するのか処理案を示してもらいた

い」

陽介は、特高に捕まり去っていく。

悟 陽介さんが捕まりました。

房子 ……そう…。何をしたの？

悟 「結社ノ目的遂行ノ為ニスル行為」をしたとして。

房子 疑わしきは罰するってこと？何もしてないじゃない。

悟 事前に防ぐためです。

房子☆ ……この戦争（言いかけてやめる）

輝代☆ ……この戦争は（言いかけてやめる）

輝代と省吾、房子のそばを人が通る。二人は、人の気配を感じ言うのをやめる。

悟 房子さん。どうですか？大日本言論報告会の理事です。貴方は、言葉を生業

とするかただ。それを大政翼賛会の一員として日本のためにいかすんです。

輝代は、見えているはずのない房子を見ている

間

房子 ……分かったわ。

原稿を書き始める。

房子 『私ども銃後の国民はこの戦勝に酔い、心を緩めてはならない。』…これは

嘘じゃない。『戦争は必然的に長期に亘るであろうが』

房子筆を止める

輝代 この戦争は、終わるんだろうか…。

房子 この戦争は、終わる。日本は多くを失う。中国に行って、身体で感じたこと

…。そのまま書いたとしても、戦局は変わらない…私の首を絞めるだけかも
しれない…『最後まで断じて弱音を吐いてはならない。』…こうまとめれば

大丈夫。『私共は宣戦の大詔を繰り返し拝承し別記本会申し合わせを実践、
夫人の決戦体制を確立して婦人職域奉公に邁進しようではないか。』陽介さ
んみたいにも、何も言えなく何も書けなくなるよりは、それよりはマシ…。婦
人の権利を守る。アリス女史も言ってたわ。婦人の権利だけは婦人にしか守

れない。一つだけでも、一つだけでも守ることが…。

軍歌が聞こえ、軍靴の音も聞こえる。
人々は行きかう。そんな中、口をつぐんだままの房子と輝代がいる。

6場 1950年 1場の次の日の朝 汽車

鳥の声。朝の光が差し込んでくる。一場の座席のまま眠り込んでいる。幸助の震えは収まったようだ。房子が目を醒ますと、清子が戻ってくる。

清子 おはよう

房子 長い夢を見ていたみたい

清子 どんな夢？

房子 清子ちゃんと一緒だったわ

清子 へー。

房子 どこに行っていたの？

清子 外で、身体伸ばしてきた。もう少しで出発だって。車掌さんに聞いたら、飛

び込みだったらしいよ。

房子 飛び込み…。清子ちゃん、怖くなかったの？

清子 だって散々見たもん。人の死体。慣れちゃった自分が怖いよ、ほんと。

房子 酷かったわね。毎日のようにどこかで…

清子 足の踏み場が無いとき、しょうがないから死体を踏み越えていかないとい

けないじゃない？踏んだとたんに皮がずるむけたりとかさ、下手すると何

か液体が飛び出てきたりとかさ、あれ、忘れようたって忘れられないよね。

房子 …そうね。

間

清子 学校にさ、話に来てくれたでしょう？

房子 清子ちゃん、あの時…

清子 私、まだ女学校に入ったばかりだったけど、すごくよく覚えてるの。その日は朝からさ、先生全員が緊張してて。体育館真っ暗にして、誰も入って来られないようにして。何が始まるんだろうと思ったたら、房子さんが来るんだもん。

房子 あの時はね、ばれたら大変なことになったから…

清子 そうだよな。家に帰っても絶対に言わないようにって先生から言われたも

んなあ。

房子 真っ暗な暑い中で、みんな真剣に聞いてくれていたわね。

清子 びっくりしたんだよ。今まで聞いたことない話ばかりだったんだもん。

房子 日本は、アジアの平和のために戦争してるんだって聞いてたのに、そんな酷いことしてたのかと思ってさ。：房子さん、いつ頃中国に行ったの？

清子 日中戦争が始まってしまっしてから太平洋戦争が始まる前：ずっと戦争に反対していたんだけど、中国と戦争が始まってしまったでしょう？せめて：交換留学とか、国同士は戦っているけど、人同士はね、せめてお互いを分か

清子 り合える機会を作れたかったの。
この戦争は：終わります。日本は多くを失うでしょうって。本当に、そんな

房子 っちゃったね。

清子 ：そうね。
なんでわざわざ内緒で話をしにきてくれたのか：分かった。でも、なんで私

房子 達にだったの？

清子 これからの女性に：聞いておいてほしかったの。本当のことを。自己満足だったのかもしれないけれど。

間

清子 見せたいものがあるんだ

と房子を車外に連れていく。眠っていた二人も目を醒ます。車内と車外が同時進行して
いく感じ。

幸助 ։朝か。

一子 おはよう。

幸助 おはよう。

一子 すごい汗だったわね。よかった。熱、引いたわね

と、これまたテキパキと上着を脱がせ閉まっていく。

幸助 一子はさ、怖いって思ったりしないのか？

一子 何が？

幸助 マラリアなんてさ、よくわかんない病気だろう？伝染るんじゃないかとか
考えたことないのか？

一子 だって、あなたがあんまり震えてるから…

幸助

そうか

一子

それによくうなされているでしょう？忘れられないくらい辛い思いもしたんだと思うわ。それも、話したくなったら話して。私も、それを聞いても動揺しないように強くないとだめね。(笑う)

房子

勝手に線路に降りていいの？

清子

車掌さん！まだ出発しない？大丈夫？

車掌

(声) 大丈夫ですよ！

と、いつの間にかすっかり仲良くなった感じ。清子が見せたかったのは小さい花。

清子

あああ！白くなっちゃってる！

房子

なに？綺麗な白い花ねえ。

清子

違うんだって。本当はね、透明になったときを見せたかったの。ねえ！お父さん！ちよつと！

なんだなんだと二人が窓から顔を出す。

清子

お父さん、この花、また透明にならない？

幸助

どの花だよ

清子

これだよこれ。もう！降りてきてよ。

幸助

病み上がりなんだぞ、父さんは

と、言いながらも車外へ。一子も付いていく。

幸助

ああ。山荷葉だ。

房子

山荷葉って…

清子

母さんと房子さんが行った短歌の会の名前、この花からとったんじゃない？

幸助

こうすりゃいいんだ。

と、幸助は、一子が肩から下げていた水筒から花に水滴を垂らす。

房子

あら！透明になった！

清子

ね！すごいよね

一子

山荷葉って名前は、新之助さんがつけたのよね。

房子

そうなの？

一子

新之助さんの初恋の方が、この花みたいだったんですって。

房子

初めて聞いた

一子

ええ。私がね、その方に似てるからって言うんで、内緒で教えてくださったの

清子

へえ！！

一子

人がたくさんいたら、見失ってしまいそうなくらい普通の。泣き虫のところも似ていたんですって

清子

確かに母さんって普通だもんね。

一子

何よ、どうせ普通よ。

房子

普通…

一子

でもね、戦争が始まったとき、普通がどんどんずれていったでしょう？むしろ、私が普通だと思うことは、いけない考えだとされていったわ。普通って、変わらないものだと思うっていただけで、変わってしまうのね

少し間

清子

ねえ。ちよつとき、泣いてるみたいに見えない？

一子

花が？

清子

そう

一子

本当ねえ。でも、泣いてるだけじゃないわ。泣きながらこんなに堂々と花を

清子

咲かせているんだものねえ。

幸助

お父さん。これ、家で育ててよ

清子

ん？できるかなあ

幸助

花育てるのだけは上手でしょう？

房子

だけ、は余分だ

幸助

お庭に、いつも花がたくさん咲いていますものねえ

房子

好きなんですよ。毎日水をやりながら、種からどんな花が咲くかなあって考

一子

えるのが…楽しい。

清子

泣きながら咲くのと、泣くこともないけど咲くこともないのと…どちらが

一子

いいのかしら

車掌

車掌

そろそろ出発ですよ。

清子

あー！やっとかあ。

車掌 お待たせしました。この汽車に飛び込んだ方がいましてね

一子 まあ…

幸助 どんな方だったんです？

車掌 もうバラバラですからね。分かりませんが…。短歌をやっていた方らしいです
すね。

房子 短歌を？

車掌 この小さなノートが遺されていました。(ノートをめくり)「名に慕へる 相
対論の創始者に われいま見(まみ)ゆる ころろうれしみ」…生きられる
時代になった途端に、死ぬことを考える人間がいるっていうのは…。さ、
ご乗車ください

4人を車内に戻す。改めて、切符を確認されるとき、房子はまた行き先が消えてしまっ
ているんじゃないかと不安になる。突然、真つ暗に。明かりが点くと、車両には今まで
の登場人物全員が乗っている。

陽介 公職追放者解除。ここに、君の名前だ。(新聞を見せる)

房子 …解除

陽介 公職追放解除、おめでとう

房子 …公職追放解除…

陽介、房子の眼鏡を取る。

房子 ちよつと

陽介 もういらないんじゃないか？…むしろ俺のほうがかけたいよ
どうしてよ

陽介 俺はずっと同じことを主張してきた。戦中は投獄されて、拷問もされて。で、
戦争に負けてさ、俺たちは釈放。そしたら、ヒーローだよ。戦争中も意思を
曲げなかったヒーローとしてあっちこちの講演会に引っ張られた。日本
もよくなったなあなんて思っていたら、赤狩り、レッドパージだ。

房子 私の公職追放が解除になったと思ったら

陽介 今度は俺だ。占領下とはいえ、すべてアメリカの都合だろ？

房子 そうね。…婦人参政権も結局アメリカに与えられたのかって思うのよ。アメ
リカにジャッジをされて、アメリカに決断をされて。それが日本の最終判断
になるというか、それを皆が受け入れてるといいうか…。

陽介 受け入れるな。日本人は疑問も挟まずに。

房子 私は、解除になるでしょう？でもね解除になって、同じ主張をして…追放さ

れる前と同じような目を向けてくれるとは思えないの。世間は、私に。

陽介

（持っていた紙を読む）私の旧い同志である市田房子氏。婦人の自由のため始終、婦人に対する封建的な思想、制度とその生活のすべてををかけて戦い続けてきた市田房子氏その思想および運動が、正しい目で見直されるであろうことを深く信じ、その追放の取り消しの日を早からんことを私は祈念してやみません。麻乃輝代

房子

…輝代さんが？

陽介

君の公職追放取り消しの請願書だ。輝代さんだって、立ち止まっちゃいない。アメリカだって、君みたいなアメリカ人がうるさく言ったから、婦人の権利も確立したんじゃないか？

朝鮮戦争勃発のニュースが聞こえてくる「38度線、ついに爆発。李韓国政府スポークスマンは25日、北朝鮮が38度線に渡って総攻撃を開始した直後、朝鮮人民共和国政府は25日午後11時韓国政府に対し宣戦を布告したと発表。6万の正規軍動員。海上からも上陸…」

輝代

私達婦人の戦いは、再軍備政策を覆し、憲法を擁護することに絞られるのではないでしょうか。憲法擁護は、平和と民主主義を守る最後の砦です。この砦が落ちたら、それから先はどこまで行くかしれません。どうしても国民の力、婦人の力でこの最後の一线は確保しなければなりません。この前の戦争の時は、私達婦人は参政権を持ちませんでした。しかし参政権を持った今の婦人は違います。違わなければなりません。それだけ戦争についての責任を、日本に対し、また世界に対し持っています。今日、この日本の歩みを黙って見ているのではありません。

房子

黙って見ていては…

輝代

「我等は選りぬ、己が路、一すぢなれど己が路、けはしけれども己が路」

房子

…「平和なくして 平等なく 平等なくして 平和なし」

二人の目が合う。明かりが変わっていくと、とらと車掌が座っている。が、とらは眠っている。

清子

…なんだかさ。何もしなかった人だけ責められないっていうのも変な話だね。母さんもずっと、房子さんは悪くなかった。あの時はみんな、そうだったし。って言ってる。

房子

直接の責任者は軍部よね。その軍部をそうさせたのは、当時の…いや、明治以来の政治の責任だと思ふの。そもそもその政り事のやり方を変えなければ

ば何も変わらない。そう思って私は政治にかかわった。でも、戦争が始まり終わらない状況で、毎日の新聞を見ておろおろするだけだった。せめて婦人運動を続けようとした。それが結果として、協力をしたことになるのよ。みんなそうだったって言い訳をしても、やったことはやったこと。なかったことにはできないって言われた気がしたの

だから、あのメモずつと持ってたの？

清子 ……そう。戦争中に自分がしてきたことを見つめなおそうと思った。でも人つて弱いわね。一回も読み返せなかった

房子 房子さんは反省したよ。あのメモだって捨てたほうがさっぱりしていいんじゃない？

房子 あの時、他に選ぶ道があったのかって、今振り返ってみても分からないの。日本だけじゃない。どの国でも、戦争に舵を切ろうという時には不安を煽るの。経済に国防に…。不安に囲まれたとき、人は判断力を失うわ。弱くなるし流されてしまう。そのことを忘れないようにね

清子 不安に囲まれたとき…かあ。

とらが寝言を言い二人は笑う。

房子 母ちゃん。…寝てるの？

車掌 どうも、まだまだなようなのでね…。私もひと眠りしたいくらいです

房子 母ちゃんは、どこに行くの？

車掌 とらさん、次に生まれるのをいつにしようかと考えているんです。

房子 え？

車掌 生まれると思う時代は、なかなか…

清子 生まれると思う時代…

房子 (眠っているとらに) 母ちゃん。ましになったと思うのよ。何もかも失くしてようやく。これからすこしでもよくなるようになって考えられるようになったと思うの。信じられないかもしれないけど、女でも選挙権があるのよ。国会議員も女性議員がいるの。学校は男女共学。すごいでしょう？…母ちゃん。母ちゃんがまた生まれたいって思う世の中ってどんな世の中？

とら (目を覚ましたようだ)

清子 私だって、いつか子供を産む…。この子が産まれてきたいと思う世の中…

とら ん？

清子 私…なにをすればいい？これから。

大きな汽笛 音楽 明かりが変わっていき溶暗